

# 文学フリマ大阪非公式ガイド

おとそ大学パブリッシング

<b>小説   純文学 (30)</b>	<b>小説   ファンタジー・幻想文学 (26)</b>	<b>小説   ミステリー (4)</b>	<b>詩歌   現代詩・散文詩 (13)</b>
A-01 花と魚	C-01 浮草堂	B-09 S.Y.S. 文学分室	D-29 花森ゆきめ
A-02 同志社文芸同好会	C-02 ヨモツヘグイニナ	B-10 Siesta+	E-17 停滞_閉塞_衰微
A-03 待兼山文学会	C-03 さてり	C-27 雪花伽	E-18 きーかす
A-04 リアルレトロ & かつぱ日和	C-04 箱庭製作所	C-28 Anonymous Bookstore	E-19 ときあめようこ
A-05 老人文学	C-05 WindingWind		E-20 ちょびっと詩人
A-06 ignea (tisso)	C-06 無重力叢書	<b>小説   ホラー・怪奇 (3)</b>	E-21 柵野初希
A-07 TRIGINAL	C-07 アズライト	B-30 アコンカグア	E-22 Juste Minuit
A-08 ヴィリジアン・ヴィガン	C-08 絵空少女	B-31 秋月	E-23 雨宿り。
A-09 Lousism	C-09 本場の歩登屋	B-32 眠る犬小屋	E-24 Cult Trash
A-10 京都ジャンクション	C-10 Natural maker	<b>小説   SNS・ブログ (1)</b>	E-25 compostela
A-11 阪大文芸部 et-cetera	C-11 桜火・sakurabi	B-33 COS 部	E-26 このはつづり
A-12 GARBS.	C-12 世界構築中	<b>小説   アンソロロジー (4)</b>	E-27 夜行日和
A-13 キストレモネード	C-13 Project 想音	B-35 刃々製本	E-28 創作工房 群青
A-14 六畳一間 e.p.	C-14 ふえにどら!!	B-36 ベンシルビバップ	<b>詩歌   イラスト・写真 (8)</b>
A-15 法政文芸	C-15 ショボン〜書房	B-37 逆美文庫	C-51 ふおとぼしよ (photo+ ことば)
A-16 彼草刈遊	C-16 Text-Revolutions 準備会	B-38 文机	E-10 夜間飛行惑星
A-17 アマチュアで妥協	C-17 レティ〜とミティ。	<b>小説   児童文学・絵本 (7)</b>	E-12 玉ねぎ頭のネコ娘。
A-18 酔っ払いバタフライ (仮)	C-18 Teletanz_Rosenkranz	B-07 ます @ レインボー	E-13 37+c
A-19 小説同人誌 mon	C-19 妄想の中の現実	D-19 ひつじのいえ	E-14 Trigger
A-20 雑記囃子	C-20 月刊さかな	D-20 すみだ はな	E-43 あめふりランド
A-21 ハムスターを壁にバンバンぶつける	C-29 サクラ伎	D-21 おおよど漫画制作所	E-44 お里湯
A-22 星座盤	C-30 エウロバの海	D-22 さいたま義経場	E-45 碧蹄館 feat. 月待者
A-23 詩架	C-31 アメシスト	D-23 どんつき A 町	<b>評論   社会批評 (1)</b>
A-24 大西智子	C-32 ちいさま文庫	D-24 ふしぎな隣人たち	E-29 ズレフェミ屋
A-25 カム	C-33 螢石	<b>小説   恋愛 (2)</b>	<b>評論   文化研究 (2)</b>
A-26 日表造形社	F-11 カナメスタジオ	D-14 招福来猫	E-30 キュリオシティ
A-27 文学結社猫	<b>小説   短編・掌編・ショートショート (23)</b>	D-15 さふらわー部屋	E-31 NEKOPLA
A-28 LOL (うる)	C-34 ふじ文庫	<b>小説   青春・学園 (3)</b>	<b>評論   アイドル・芸能 (1)</b>
B-28 元カノを誤訳とあのこと	C-35 ささら舎	D-16 高木朱篤倉庫	<b>評論   サブカルチャー (1)</b>
D-01 白昼社	C-36 立夏六花	D-17 それはなにかとずねたら	E-33 普通な人の会
<b>小説   エンタメ・大衆小説 (42)</b>	C-37 根暗本舗	<b>小説   歴史・古典 (4)</b>	<b>評論   SF (2)</b>
B-01 桃山学院大学文芸部	C-38 文芸的創作団体「文紡」	D-25 イフ脱記計画	E-34 東海 SF の会
B-02 薄絵企画	C-39 由香	D-26 ふしぎあん	E-35 打算とも名譽とも無縁なもの
B-03 春夏冬	C-40 風車	D-27 龍の髭	<b>評論   ファンタジー・幻想文学・怪奇文学 (2)</b>
B-04 黒曜舎	C-41 間樂	D-28 高森純一郎	E-36 黒死館附属幼稚園
B-05 階亭	C-42 CafeCappucci	<b>小説   BL (7)</b>	E-37 西方猫耳教会
B-06 活動漫画屋	C-43 海青喫茶	D-30 ソライロメトロ	<b>評論   アニメ・マンガ・ゲーム (5)</b>
B-08 猫の独語	C-44 西方綴織	D-31 ひだり。	E-38 立命館大学メディア芸術研究会
B-12 こんぱた。	C-45 おはなし和文社	D-32 殺戮系男子症候群	E-39 はなごよみ
B-13 ふれーめん	C-46 手紙屋	D-33 午前三時の音楽	E-40 得意ひま
B-14 きうい☆ベリー	C-47 夜半すぎの郵便屋	D-34 hydra / blue	E-41 F 会 & アニメ・マンガ評論刊行会
B-15 犬吠埼一介のホームページ	C-48 紙魚を食べる虫	D-35 梅竹堂	E-42 余白の楽書
B-16 鶴ヶ島まちおこし委員会	C-49 はぐるま図書工房	<b>小説   百合 (4)</b>	<b>評論   文芸批評 (1)</b>
B-17 鳥取大学文芸部 有志	C-50 創作サポセセン三期生、それぞれの道	D-37 蕪研究所	G-05 大阪市立大学文学研究会
B-18 フロケリプカ	C-52 おとといあさって	D-38 コーヒー色の百合畑で	<b>評論   建築 (1)</b>
B-19 社会人サークル「あとのまつり」	C-53 海月幻想社	D-39 書肆リリカルト	G-06 心地愛好家集団「Team4.5 量」
B-20 教授会	C-54 神戸大学文芸研究会	D-40 コーヒーブレイク	<b>評論   その他 (3)</b>
B-21 なんそぼ	C-55 関西大学文芸部文学パート	<b>詩歌   俳句・短歌・川柳 (22)</b>	G-07 アトリエサード
B-22 豆蔵 (ゼブラ出版)	C-56 兎角毒毒團	E-01 104	G-08 マスクねこ
B-23 ブックシェルブ病棟	F-12 天文マリオネット	E-02 fullidom	G-09 総合表現集団かべちよろ
B-24 一二三堂	<b>小説   その他 (11)</b>	E-03 京大短歌	<b>ノンフィクション   エッセイ・随筆 (8)</b>
B-25 救援信号	D-02 文学フリマ大阪非公式ガイド	E-04 BON*Li_Na	F-13 遊モア・プロジェクト
B-26 a piacere	D-04 大阪文学学校学生委員会	E-05 雲庵	F-14 マゾヒスティック・リリィ・ワークス
B-27 冬青	D-05 R.B.SELECTION	E-06 立命館大学短歌会	F-15 大井ヶ森文庫
B-29 関西魂	D-06 甲南大学文化会文学研究会	E-07 かんざし	F-16 ユミタ
B-39 小説の志	D-07 朝までナスタレブレ	E-08 うたつかい	F-17 パナトリエ
B-40 Little Curly	D-08 ほびんぼっぺん +PlasticWild	E-09 うたらば	F-18 atelier makotomo
B-41 はぐれ文芸部 X	D-09 文芸 ikki	E-10 うたつかい	F-19 zine 部
B-42 天津神本舗	D-10 True Memory	E-11 BL 俳句合同誌「庫内灯」編集部	F-20 ジンジンする ZINE
B-43 現代文学研究部	D-11 ザ・ひも理論ズ	E-15 赤茶の星でジャムネコを飼う	<b>ノンフィクション   写真・映像 (1)</b>
B-44 不完全標本	D-12 MagicButterFly.	E-16 盲目羊とサクラジマ	G-02 廃墟探索部
B-45 Production 586	D-13 Mizikid	E-17 cahier	<b>ノンフィクション   雑誌 (3)</b>
B-46 repro	<b>小説   ライトノベル (16)</b>	E-18 川柳カード	G-11 折原ゆかりのエロやさいサークル
B-47 紫陽花宮	D-41 「誠」自由工房	E-19 大阪大学短歌会	G-12 未達のスパンコール
B-48 うく椅子	D-42 Q 出でずか、そうでずか	E-20 短歌同人誌「率」	G-13 フリーペーパー制作団体 thREAD
B-49 わかつき本舗	D-43 Pumpkin Head	E-21 ito	<b>ノンフィクション   インタビュー (1)</b>
B-50 ティコの星	D-44 五月雨計画	E-22 現実アラカルト	G-14 桃山学院大学木島ゼミナール
B-51 つばめ錦詩社	D-45 デシロップ	E-23 短歌同人誌「一角」	<b>ノンフィクション   その他 (2)</b>
B-52 バスタなら作れます	D-46 放談 ×0.03	E-24 短歌同人誌「率」	G-03 城東ばらどっくす
B-53 関西学院大学文化総部文芸部	D-47 華音遊記	E-25 神戸大学短歌会	G-04 KS プロジェクト
B-54 昆虫図鑑	D-48 夜月書房	E-26 めためたドロップス	
B-55 トリアトリエ	D-49 猫舌連盟	E-27 楓の花	
B-56 DAISY CHAIN 製作委員会	D-50 九龍組	<b>詩歌   朗読・歌唱 (1)</b>	
<b>小説   SF (8)</b>	D-51 玉造屋バキューン	E-46 Girls on a Picture	
B-11 HPJ 製作工房	D-52 大塚マート	<b>詩歌   その他 (1)</b>	
C-21 はるこん実行委員会	D-53 少女サナトリウム	G-01 小野進一	
C-22 真摺中心	D-54 藍色横町		
C-23 ソラギア	D-55 大阪芸術大学文芸学科		
C-24 A NormalLife...	D-56 あいうえおーダー		
C-25 日本初期 SF 映像顕彰会	<b>小説   海外文学・翻訳 (1)</b>		
C-26 第四滑走路	B-34 Studio120		
D-03 雲上回廊			

見本誌コーナー

(ステージ上)

G

01 02 03 04

G

05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

G

15 16

F

20  
19  
18  
17  
16  
15  
14  
13  
12  
11  
10  
09  
08  
07  
06  
05  
04  
03  
02  
01

E

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

E

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

D

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

D

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

C

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

C

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

F

B

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

B

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

A

28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15

A

14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

出入口

# 純文学

通勤ラッシュの時間帯に熊がいる。電車を待ってぎゅうぎゅうとひしめきあう人中に熊が。ごわごわとした黒い大きな背中。あ、熊、そう思う間もなく雪歩が背中を猟銃を引き抜いて撃った。ずばん。あんまり非現実的で笑っちゃうような音を響かせて、弾丸が熊の脳天を撃ちぬく。ぐわあ、とか、なんとか、重苦しい声で吼えると熊はホームのひび割れたコンクリに倒れ込んだ。瞬間悲鳴とざわめきが立って周りの人間がざっと引く。即席噴水広場みたいな感じでできあがってしまったまあるい空間のど真ん中で熊はぐったりと伏せて、頭からどくどくと血の海を広げていた。

まあ熊……っていうか、人間なんだけど。雪歩はなにこともなかったかのように

――「夜更けには熊が来るから誰も泣かない。」(著者：e b) 抜粋

- |      |                 |      |                  |
|------|-----------------|------|------------------|
| A-01 | 花と魚             | A-15 | 法政文芸             |
| A-02 | 同志社文芸同好会        | A-16 | 彼草幻燈             |
| A-03 | 待兼山文學會          | A-17 | アマチュアで妥協         |
| A-04 | リアルレトロ & かつぱ日和  | A-18 | 酔っ払いバタフライ(仮)     |
| A-05 | 老人文学            | A-19 | 小説同人誌 mon        |
| A-06 | igneia (tisso)  | A-20 | 雑記囃子             |
| A-07 | TRIGNAL         | A-21 | ハムスターを壁にバンバンぶつける |
| A-08 | ヴィリジアン・ヴィガン     | A-22 | 星座盤              |
| A-09 | Lousism         | A-23 | 詩架               |
| A-10 | 京都ジャンクション       | A-24 | 大西智子             |
| A-11 | 阪大文芸部 et-cetera | A-25 | カム               |
| A-12 | GARBS.          | A-26 | 日表造形社            |
| A-13 | キスとレモネード        | A-27 | 文学結社猫            |
| A-14 | 六畳一間 e.p.       | A-28 | LOL(ろる)          |
|      |                 | B-28 | 元カノを誤訳とあのこと      |
|      |                 | D-01 | 白昼社              |

見本誌コーナー

(ステージ上)

G

01 02 03 04

G

05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

G

15 16

F

20  
19  
18  
17  
16  
15  
14  
13  
12  
11  
10  
09  
08  
07  
06  
05  
04  
03  
02  
01

F

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

E

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

D

**01** 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

C

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

B

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

**28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15**

A

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

E

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

D

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

C

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

B

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 **28**

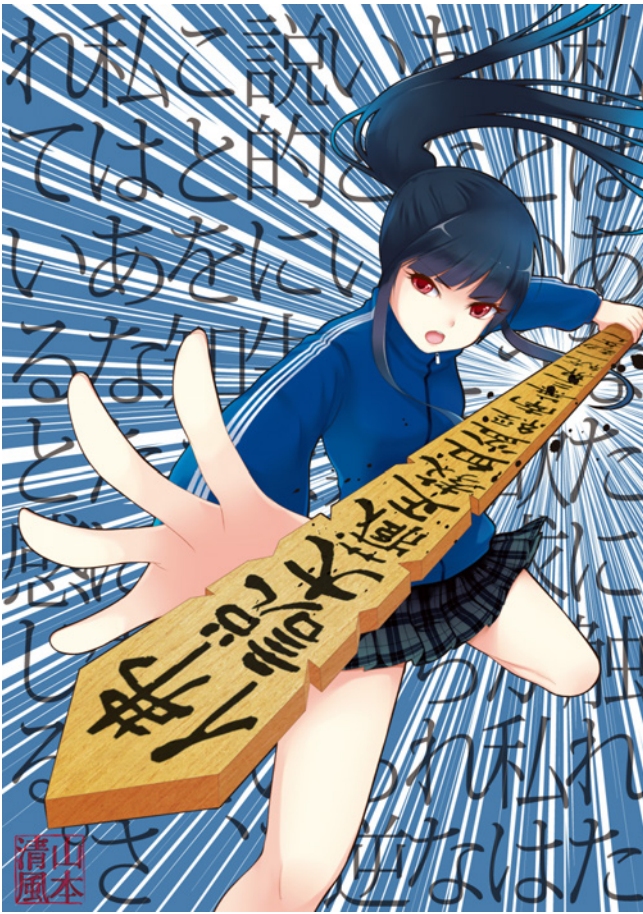
**14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01**

A



私はあなたに触れたいという欲求が私はあなたに触れられないという禁則から逆説的に生まれていることを知ったとき、私はあなたに生かされていると感じる。

山本清風（文学結社猫：A-27）



セックス

歴史

学園

恋愛

純文学

あらすじ

——星間の距離感をわたしたちは星座と呼び、心の距離感をわたしたちは恋愛と呼ぶのだ。かつて遠い昔の瞬きをわたしが星と認識するように、認識したときにはすでになくなっているかも知れない、そんな可能性がわたしの恋だった——

浦崎（うらがさき）市という架空の町を舞台に、関西方言を用いて黒髪JKポニテール処女の川原明日架（かわはらあすか）がクソサブカルナイーブ野郎から告白されたり、女友だちのトイレに嫌々つきあったり、カースト上位のいかついヒゲメンからSNSでグイグイ来られたりしながら、現実から逃避するはずの物語がこれでは意味ありませんやんか、まったく癒されないまま「わたしはあたしがわからない」を叫んだ、ラノベに偽装する純文学。

# ポップでハードコアな一冊 (紹介者：式杏)

小説の感想として、音楽的である、という表現に出会うことがあります。音楽的。なんとなく分かるような気になっていましたが、この小説を読んでわたしは初めて小説を音楽的だ!と思いました。

『私はあなたに触れたいという欲求が私はあなたに触れられないという禁則から逆説的に生まれているということを知ったとき、私はあなたに生かされていると感じる』

この、ツイッターならそれだけで文字数がいっぱいになりそうなタイトルの小説、通称イカサレは、結論から言うとおポップなハードコアでした。

好きな男から告白された主人公・川原明日架が自意識をこんがらがらせそれを断ってしまい、色々あった末に改めて男に告白するが男も自意識をこんがらがらせており……とそのあたりまでは笑って読めました。

コロコロと転がるような軽やかな一人称にアフォリズムめいた言葉を散りばめたような独自の文体はどこまでもポップで、文章を読むというただ単純な喜びに読者を浸らせてくれます。

地の文と会話文はほとんど境目なく続いており違和感を感じさせません。気が付けばあれよあれよという間にわたしは山本清風氏に連れていかれていたのです。ちょっとした地獄に。続きはweb以外で。

話を音楽に戻しましょう。この小説のどこに音楽を感じたかと言うと、そのリズムです。演奏は軽やか。キャッチーでやや癖のあるメロディ。ときおり変拍子が入りつつも、難解さは感じさせず、あくまでもポップに小気味よく。そうそう、ヘッドフォンで聴けばさぞ気持ちよいでしょう。

ですがこの曲を聴き終えたとき、爽快感など微塵もありませんでした。何故でしょう。思い返すと軽やかだった演奏はそのリズムのみを残したままディストーションギターにすり替わっており、同じなはずのメロディは、いえ確かに同じメロディなのですがいくつかの間にか歌声でなくエモーショナルな絶叫に変わっていたのです。

これを読んだみなさんにも是非その口当たりの良さに騙されて読んで欲しいのです。そう、以下の言葉にピンときたなら特に。

自意識／クソサブカルナイーブ野郎／産む機械／ピーチジョン  
／承認欲求／イムルダイ／初音ミク／NTR／卒塔婆／岡崎京子

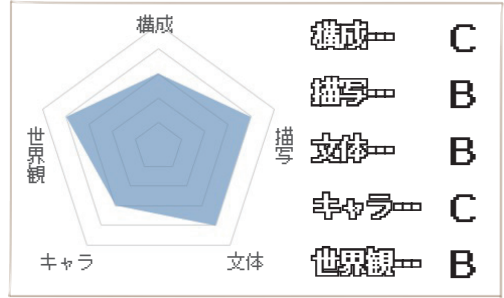
……そうそう、書きながら気が付きましたがこれはぎつとり  
バース・エッジの変奏。

平坦な戦場で僕らが生き延びること。そういうことなのです。



## びょうびょうたる季節

取るに足りぬものほど、愛おしい。



価格	400円
ブース	A-01
著者	スイミー (花と魚)

Twitter: @hana\_to\_sakana

ウェブサイト: <http://hana-to-sakana.tumblr.com/>

## びょうびょうたる季節



夜のうちに虫か鼠が出たのだろうかと思ひながら欠けた茶碗をそつと手に取った。するとどうしたことか、さつきまで茶碗が伏せられていたその場所に、碗の丸みに沿うようにちいさな人が膝を抱えて横たわっていたのである。  
(あれま、一寸法師が出た。)

咄嗟にそう思った。

ちいさな人は突然に朝の真白い光の元に曝されて、眠りから目覚めた。そしてこちらの視線に気付くと佇まいを直し言うのである。

「これからお世話になります」

深々とお辞儀をされては、呆氣にとられながらも頷いてやるほかなかった。

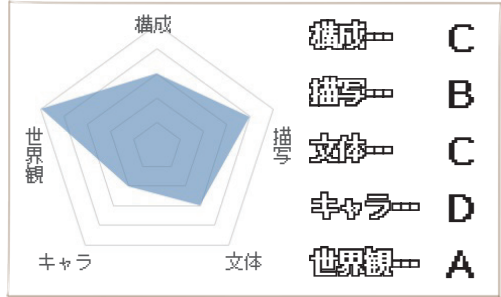
ちいさな人はこまごまとしたちいさな着物を着ていた。紐のような帯もちゃんとしていて、髪も凛々しい総髪を結つてあるが、足元は裸足であった。気に掛かり、履くものはないのかと問うと、誇らしげに懐から草履を取り出したので、用意が良いものだと驚かされた。

彼は礼儀正しく、気持ちのよい人だった。一口にも満たない僅かな食事を匙の上に乗せて分けてやると、大変美味しいと言いながら喜んで食べ、お礼にと舞を披露してくれる。仕事で使うペンのインクが一滴机の上に零れると、襷を掛け、膝をからげて、彼には大きすぎる布切れを持ってきて、ごしごしと懸命に汚れを拭ってくれる。

ちいさな人と暮らしはじめて三日ばかりが経った頃、呼びかけるのに不便であるので、彼に白(しろ)という名を付けた。白い光で目覚めたからという安直な名であったが、白はおおいに喜んだ。白、と呼ぶと、彼は何処に居てもきちんと居直つて「はい」と腹から声を出して返事をする。それが実に耳に心地よく、日に一度は用もなく名を呼んで返事をさせた。

## キスとレモネード

レモネードみたいな恋をする、透明な少年少女の短編集



価格 未定

ブース A-13

著者 彩村

ツイッター: @milkteaborbon

ウェブサイト:

音を立てて消えてしまうの  
思い出だけ残していつてしまうの  
ソーダ水みたいな夏の午後

朱鷺色の空の端にまだうつつすらと濃紺の夜の名残をとどめる朝、私は唐突に目を覚ました。夜中じゅう開け放っていた窓からはまだ排ガスに侵されていない清冽な空気が日焼けしたレースのカーテンを揺らした。

「いくらなんでも早起きすぎたな」

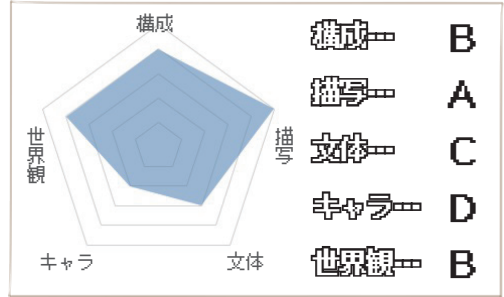
時計の針はいつも起床する時間よりずいぶん早い時刻を指し示していた。

一度目が覚めてしまうとなかなか寝付けない自分の体質をうらみながら、もぞもぞと小学校の入学祝いに買った年季の入った木製ベッドを軋ませて身体を起こす。洗い晒したガーゼのパジャマは寝汗を吸い込んでしっとり肌になじんでいる。首筋に貼り付く黒髪に、夏だ、と思った。今日から夏休みなのだから、当然すぎる事実ではあるけれど。足音を立てないようにそうつと部屋のドアを開け、慎重に廊下に爪先を下ろした。家族で一番早起きの母もまだ起きていないようだ。少し早すぎるけれど朝食でも摂ろうかとキッチンへ向かおうとしたとき、それは風のように流れ込んだ。

純文学

## 寄生

愛と暴力のための、純文学



価格 600円

ブース A-26

著者 小柳日向

Twitter: @hinatazoukeisha

ウェブサイト: <http://hinatazoukeisha.hatenablog.com>

その朝、目覚めると巨大な毒虫になってはいなかった。結論から云うと。然し、巨大な毒虫になっていそうな気がしたのである。慌てて目だけを動かし、四肢が正常な状態であることを確認した。安堵の為、嘆息し、それから俯せに姿勢を変えて枕に顔をうずめた。微と汗のにおいがした。

目覚めは最高に最悪であり、全身からねっとりとした汗が噴き出していた。平素、夢など見ないものだが、昨今になって同じ悪夢に魘されるようになっていた。大量の虫が部屋中の何処からともなく湧き出し、黒く視界を覆いつくす。そうして、自分までも飲み込まれてしまう。夢であるはずなのに気持ちの悪い触感が肌をざわつかせた。



白昼社文藝誌  
オートカクテル2015

# autococktail

特集 耽美

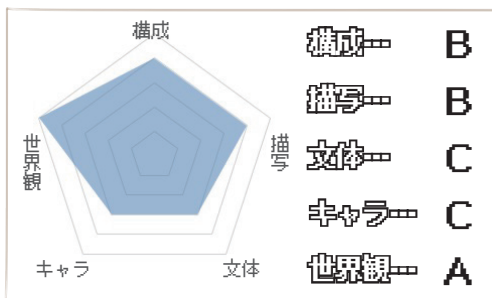


純文学

アンソロジー

## 文藝誌オートカクテル 2015

「耽美」について



価格 1000円

ブース D-01

著者 アンソロジー

ツイッター: @hakuchusha

ウェブサイト: <http://www.necotoco.com/yura/>

バビ子はかわいいそうな女の子だ。

プリンは一日一個までだしゲームは一日一時間まで。そのうえ昨夜、ダンスホールにてバラバラ死体となってしまったのだ。

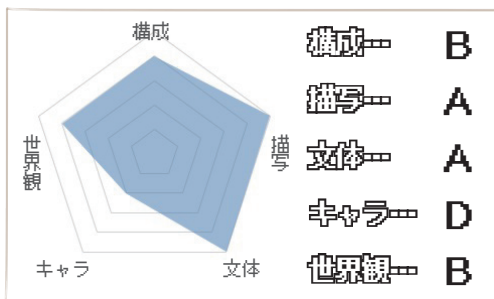
かわいいそうなバビ子はダンスホールの片隅、誰もが音楽に気を取られている間に何者かによってバラバラにされた。彼女のそのまだ余計な肉のついていないほっそりとした右手、右足、左手、左足、そしてつるりと卵形の小さな頭は切断され埃だらけのフロアに無造作に転がり、単なる内臓の入れ物と化してしまった胴体にいたってはその日たまたま近くの動物園から逃げ出したワオキツネザルに親と間違えられたのか素早く持ち去られてしまったのだ。

かわいいそうなバビ子。これはバビ子が未成年にも関わらずダンスホールに行ったこと、そして初めてのダンスホールに浮かれていつもよりもバラバラ死体になれやすい格好をしていたことを差し引いてもまだかわいいそうさだ。

(伊藤なむあひ「星に(なって)願いを」より)

## すな子へ、

すな子と珈琲人形を巡る文学冒険



価格	未定
ブース	D-01
著者	泉由良

Twitter: @hakuchusha

ウェブサイト: <http://www.necotoco.com/yura/>

街で初めて珈琲人形を見つけたのは、確かにこの日であったと記憶している。

高層の夢を敷石にして出来ている駅のすじ向かいの両替屋はウインドウに小洒落たものを飾るのが好みらしく、そのなかに響めっ面をして飾られていた、それが確か、珈琲人形であった。珈琲人形はシルクであろうドレスを着て、細い白い腕でそのドレスの裾に触れながら、口許を結び目を伏せていた。小さく、然し精巧な人形だ。

——目を開けないだろうか？

思っていたら声になって聞こえたが如くにぱつちりと目を開いた。それだけで辺りに花が咲いたような気になった。

私は云った、夢中になって。

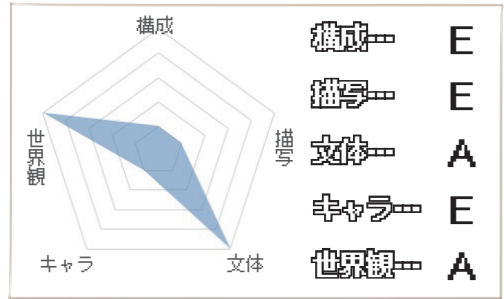
「うちにおいで。衣装を沢山作って、毎日珈琲も飲ませてあげる、だから、おいで。こんな所から連れ出してあげるよ」

## 夜更けには熊がくるから誰も泣かない。

とにかく僕らは撃ち殺さなければならない。熊を。



夜更けには  
熊がくるから  
誰も泣かない。



価格 未定

ブース 不参加

著者 eb (うつぶせレコーズ)

Twitter: @qrnh1

ウェブサイト: <http://note.mu/qrnh1>

通勤ラッシュの時間帯に熊がいる。電車を待つてぎゅうぎゅうとひしめきあう人の中に熊が。ごわごわとした黒い大きな背中。あ、熊、そう思う間もなく雪歩が背中を猟銃を引き抜いて撃った。ずばん。あんまり非現実的で笑っちゃうような音を響かせて、弾丸が熊の脳天を撃ちぬく。ぐわあ、とか、なんとか、重苦しい声で吼えると熊はホームのひび割れたコンクリに倒れ込んだ。瞬間悲鳴とざわめきが立って周りの人間がざつと引く。即席噴水広場みたいな感じできあがってしまったまあるい空間のど真ん中で熊はぐったりと伏せて、頭からどくどくと血の海を広げていた。

まあ熊……っていうか、人間なだけで。

雪歩はなにごともなかったかのように銃をケースにしまうと、なに食わぬ顔で滑り込んできた電車に乗り込んだ。

本日本初の犠牲熊、会社員岡本善次郎三十五歳は下校中の女子小学生に声を掛けて拉致監禁、ばらばらにして山の中に捨てた猟奇殺人犯だった。けど、雪歩はそんなのは知ったこっちゃない。雪歩にとって岡本善次郎は熊だった。人間を食べる熊だ。人間をばらばらの骨ばかりにしてしまう熊だ。雪歩に言わせてみればこの世の半分ほどが人間に擬態した熊なのだ。雪歩はつやつやと黒光りする猟銃をもって、そいつらと戦っている。

教室では案の定、けさの会社員狙撃事件が話題になっていた。スマートフォン片手に人の死を笑顔で語る同級生たち。どうせ彼らがみつめる画面の向こうでも似たり寄ったりな言葉が飛び交っているんだろう。猟銃？ やばい、死んだのは殺人犯らしいよ、やばい、とか、そんな感じの。

「……ゆるせないな」

雪歩は誰に言うでもなくそうつぶやいて、ぶつけるように鞆を机の横に掛けた。やがて始業のチャイムが鳴っても、教室はさざなみのようなざわめきに満たたままだった。一眼目の担当教師が入ってきて。授業なんて誰も聞いちゃいない。みんな電子機器の向こうに、犯罪者が制裁される非現実的なできごとを見ている。あるいは教卓に置かれた花瓶を。……その向こうには、ほんの一週間前に起こったばかりの、先生の死がある。

とても凄惨な。

シュルレアリスム小説

### 「キチガイボックス」

そにつくなくす  
(酔っ払いバタフライ：A-18)

そにつくなくすはすごい女だ。  
その文才は圧倒的に「華やか」。  
一緒に載ってるアンソロジイを知  
人に紹介すれば、九分九厘彼女の方  
が褒められる(笑)。

その魅力については語り出すとキ  
リがないのでまた別の場所。せめ  
て作風が真逆でよかった。くわばら  
くわばら。

(紹介者：赤木杏)

詩と文とコミック！！

### 「視聴者参加型患者計画 vol.3」

そにつくなくす  
(酔っ払いバタフライ：A-18)

SFチェックな「こいびととむすば  
れたときがきた」や詩「夜を歩く」が  
好み！

(紹介者：コットン(ジンジンするZINEの編集人))

理性的な狂気

### 「グランジナースの死」

ひのはらみめい  
(酔っ払いバタフライ：A-18)

看護師目線から語られる現場のリア  
ル、と書けばあっさりしてしまうので  
すが、この作中で描かれている風景は  
「そんなもんじゃない」。

これは世代唯一のサイコパス「グラ  
ンジナース」による戦いの記録だ。そ  
の白くやわらかそうな手のひらに乗せ  
られた死と、その背後に背負っている  
名前の付けられない何か。

ノイズミュージックを浴びるように  
暴力的に読んでほしい本です。

(紹介者：にゃんしー)

泣きながら、圧巻の結末。

### 「イカサレ」

山本清風  
(文学結社猫：A-27)

これを読んだとき「悔しくて」た  
まらなくなった。なんてことしやがるん  
だろう、と。それぐらい、心を抉られ  
る結末。

女の子の心地よい関西弁と、軽い文  
体にはそぐわない重みのある文章。こ  
れこそ「純文学」。

ストーリーは続編の「夜の信号」が何  
処までも青なら」に続きます。しかし  
そこに救いがあるかどうかは、私は口  
を嚙みます。

(紹介者：にゃんしー)

この世界を自由に遊ぶ名前を持たない女の子

「キャンディと王様（全3巻）」

にゃんしー

（白鳳社・D-01）

尼崎×女の子×野球、をモチーフにした女の子の草野球小説です。

野球を通じていろんなものと向かい合う女の子の切実さを描きたかった。

鉄道と川に囲まれた守られた町

「千船」で少女の夏というたった一度の季節を野球に托す。ドラマではない。もっと切実に強く痛む。

（紹介者…にゃんしー）



# エ ン タ メ

夏の日差しが、八奈結び商店街のアスファルトを焦げ付かす。

アーケードも無い商店街の通りをじりじりと熱して、向こうを見渡そうとすれば像が姿をゆらりとくゆらす。午後三時を過ぎた頃、涼しい夕風を期待するにもまだ少し遠い時間帯。

それでも微かな風が、どこかの店先の風鈴を鳴らした。呼応するように、あちこちで軽やかな音色が立ち上る。遠くに聞こえる蝉の合唱と相まって、ちよつとした演奏のようになる。

駄菓子屋の主人の小東さんが、うちわを仰ぐ手をゆっくり止めた。ふと見やれば軒先に吊るした小さい『氷』の掛け軸が、ほんの少し揺れて、じきにまた動かなくなる

――「八奈結び商店街を歩いてみれば――夏やで！」（著者・世津呂章）抜粋

- |      |                 |      |                   |
|------|-----------------|------|-------------------|
| B-01 | 桃山学院大学文芸部       | B-26 | a piacere         |
| B-02 | 薄禍企画            | B-27 | 冬青                |
| B-03 | 春夏冬             | B-29 | 関西魂               |
| B-04 | 黒曜舎             | B-39 | 小説の志              |
| B-05 | 階亭              | B-40 | Little Curly      |
| B-06 | 活動漫画屋           | B-41 | はぐれ文芸部 X          |
| B-08 | 猫の独語            | B-42 | 天津神本舗             |
| B-12 | こんぼた。           | B-43 | 現代文学研究部           |
| B-13 | ぶれーめん           | B-44 | 不完全標本             |
| B-14 | きうい☆ベリー         | B-45 | Production 586    |
| B-15 | 犬吠埼一介のホームページ    | B-46 | repro             |
| B-16 | 鶴ヶ島まちおこし委員会     | B-47 | 紫陽花宮              |
| B-17 | 鳥取大学文芸部 有志      | B-48 | うく椅子              |
| B-18 | フロックリブカ         | B-49 | わかつき本舗            |
| B-19 | 社会人サークル『あとのまつり』 | B-50 | ティコの星             |
| B-20 | 教授会             | B-51 | つばめ綺譚社            |
| B-21 | なんそば            | B-52 | パスタなら作れます         |
| B-22 | 豆蔵（ゼブラ出版）       | B-53 | 関西学院大学文化総部文芸部     |
| B-23 | ブックシェルブ病棟       | B-54 | 昆虫図鑑              |
| B-24 | 一二三堂            | B-55 | トリアトリエ            |
| B-25 | 救援信号            | B-56 | DAISY CHAIN 製作委員会 |

見本誌コーナー  
(ステージ上)

G			
01	02	03	04

G									
05	06	07	08	09	10	11	12	13	14

G	
15	16

F

20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
09
08
07
06
05
04
03
02
01

F

56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43
E													
01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14

56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43
D													
01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14

56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43
C													
01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14

<b>56</b>	<b>55</b>	<b>54</b>	<b>53</b>	<b>52</b>	<b>51</b>	<b>50</b>	<b>49</b>	<b>48</b>	<b>47</b>	<b>46</b>	<b>45</b>	<b>44</b>	<b>43</b>
B													
<b>01</b>	<b>02</b>	<b>03</b>	<b>04</b>	<b>05</b>	<b>06</b>	<b>07</b>	<b>08</b>	09	10	11	<b>12</b>	<b>13</b>	<b>14</b>

28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
A													

42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
E													
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28

42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
D													
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28

42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
C													
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28

<b>42</b>	<b>41</b>	<b>40</b>	<b>39</b>	38	37	36	35	34	33	32	31	30	<b>29</b>
B													
<b>15</b>	<b>16</b>	<b>17</b>	<b>18</b>	<b>19</b>	<b>20</b>	<b>21</b>	<b>22</b>	<b>23</b>	<b>24</b>	<b>25</b>	<b>26</b>	<b>27</b>	<b>28</b>

14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01
A													



# el.

Wilhelmina (冬青：B-27)



el.  
Four Stories of the Angel 

大衆小説

SF

ファンタジー

アンソロジー

あらすじ

「天使」をテーマにしたアンソロジーです。

■白人の女性型の義体のように見えたが、それは人ではなかった。ほっそりとした肩の後ろから、巨大な白い羽根が覗いている。

——「天使」の義体。

「ガブリエル」(大塚暁)

■誰もいなくなったリンクに、新たに滑り出す者はいない。ヴコールはじっと階下を見ながら、天使の姿を傷だらけの氷上に思い描いた。

「レニングラード」(1988) (あずみ)

■……あんたたちはほんとうに残酷だな。人前に姿を現すときは、相手が最も対面を望まない人間の外見を借りてくる。

「羽」(柳川麻衣)

■ガンⅡカタ・スタイルで戦いアヴァター世界唯一の『魔法』を使う、鋼鉄の羽根を持つ天使。

「ハロー、ニュー・ワールド」(穂崎円)

以上四篇を収録しています。

四人の「天使たち」の織り成すシーン（紹介者：高梨來）

“天使”と聞けば皆、どんな姿を思い浮かべるだろうか。  
人ではないもの。

神の使い。

清らかで崇高な存在。

義体、フィギュアスケーター、ボーカリスト、アヴァター。

四者四様の解釈で描かれる四人の『天使』たちは、現れる時代も背景もそれぞれ異なりながら、その美しさ・力強さ・儚さで、出会う人々の記憶に、そして読み手である私たちに焼きつくかのような色鮮やかなその存在を残していく。

『羽根を持つ者』のその軽やかさは読み手を惹きつけ、ペー  
ジをめくる手を止めさせてくれない。そしていつしか、その軽  
やかさのまま音も立てずに飛び立ち、私たちの元にはふわふわ  
と柔らかなその羽根だけが残される。

それぞれに異なったトーンを貫きながらも、静謐で重厚な世  
界が練り上げられた物語はどこまでも奥深く、美しい。

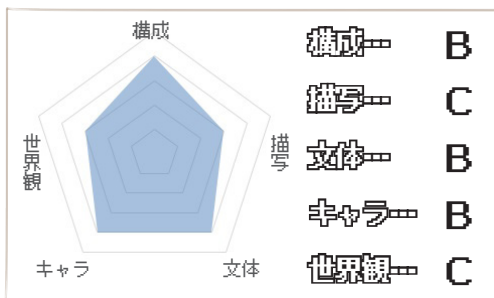
読後にそっと込み上げる余韻はまるで、単館上映のオムニバ  
ス映画を見終えたよう。

BL

恋愛

## サンタマリアの約束

貴方は、俺の初恋だった。



価格 未定

ブース B-03

著者 明巢 (春夏冬)

ツイッター：@onborobo

ウェブサイト：

「お前は、好きだと言ってくれないのか」

微笑みながら首を傾げると、彼はカチャリとカップをソーサーに置いて、口元を緩めた。穏やかにも見えるその顔が、一瞬、引きつったのを大地は見落とさなかった。

「馬鹿馬鹿しい。お前のことなんてどうとも思っていない」

そう言う声が、少しだけ掠れるのは、出会った頃と同じ。伏せられた臉の下、アイスブルーに揺れる感情。その感情をなんと呼ぶかを知っていて、大地は逃げ道を残す。それも、前から変わらない。指を組み、肘をつけて目を伏せる彼は何かに祈るようで、この行為はまるで儀式のようだった。

「あーそうかい」

紅茶に口を付ければ、暖かさと共に香りが口いっぱい広がっていく。彼がどうしてこれ程美味しい紅茶を淹れるかを、大地はよく知っていた。彼の初めて淹れた紅茶がどんな味だったかも、よく覚えてる。

「やっぱりテオドールの淹れたのが、一番だ」

そう言って息を吐けば、彼の瞳が少しだけ光を受けて煌くように見える。実際は、大地が口を付けたカップに沿って視線が揺れた程度であり、たいして嬉しそうな顔をした訳でもなく、まして微笑みをその顔に湛えた訳でもない。元から無愛想でほとんど感情を顔に出さない彼は、相変わらずむっつりと黙り込み、その腕を組むのみ

BL

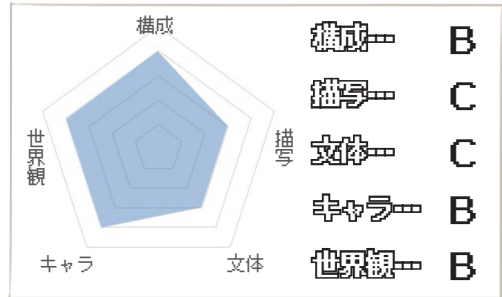
恋愛

短編連作

## merry-go-round

貴方が愛してくれれば、世界で一番幸せになれる

書影はまだありません



価格	未定
ブース	B-03
著者	明巢 (春夏冬)

Twitter: @onborobo

ウェブサイト:

「クロウ」

少年が彼のあだ名を呼ぶ。彼は首をかけた。月光が彼の角に反射して少しだけ光った。

「死にたいのか」

「死にたくは、ないんだけど」

「処分されたいなら、止めないぞ」

隼獣は、美しさや珍妙さ、可愛らしさ等が重宝された。それらを競うコンテストも年に数回開かれ、そこでグランプリをとったようなS級品は高値で取引された。特に、安全安心高品質を唱える清澤社の隼獣の一品品は毎年上位に残る。

クロウもまた、そんな清澤社の製品ではあったが、浅黒い肌や、羊という何の変哲も有用性もない種といったことにより、この年まで売れ残ってしまった。筋骨隆々であったりすれば力仕事位はできたであろうに、肉体的にも中肉中背である。クロウは売れていく仲間達を、ずっと見送り続けていた。

もとよりC級品であった彼の値段は、当初ついていた金額の半額以下の、完全在庫処分扱い。隼獣ショップの不良在庫である彼は、そのまま行けば処分されてしまうことが明らかだった。

そして何より、今まさにショップ中の商品が我先にと逃げ出している中、彼だけが一人残っていたら、どんな扱いを受けるか分からない。他の者達であったら簡単に思いつくようなことが全く思いつかないといった風に、クロウはのんびりと首をか上げた。喧騒の中、そこだけ空気がゆったりと流れているようだった。

「そうか、死ぬのは嫌だね、確かに」

彼は、少年の手を掴んだ。そうして、自由の荒波に、特に何の意思も見出さぬままその身を投げ入れた。

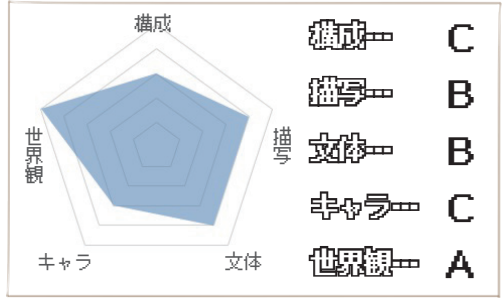
ファンタジー

大衆小説

## 戯 [ajara]

これは、人の皮を被った化物による【遊戯】だ。

書影はまだありません



価格	未定
ブース	B-04
著者	黒兎玖乃

Twitter: @kurotokunai

ウェブサイト: <http://kokuyosha.jp/>

自由になって一週間ほどしか命が持たない生物とは、生涯の殆どを暗い暗い中で過ごしている生物とは、

かのアイソーボスで、死にゆく運命に立たされた生物とは、何か。

「それは蟬だ」

問われれば、群衆は口を揃えてそう言った。

そしてこの原因不明の病は、ある特定の行為を継続しなければ、一週間で命を落とすことになる。

ある者は七日の間一度も血を流さなければ全身から血液を噴出させ、

ある者は七日の間一度も射精しなければ身体が腐敗してゆくのを見届け、

ある者は七日の間一度も砂を食べなければ流動化して土の肥やしになる。

つまり最短、発症から七日で死に至る。それがとても蟬に似ていることから、この病を発見した人物はこの病——もとい罹患した者を〈蟬〉と称することにした。

分かり易さと、それと皮肉を含ませて。

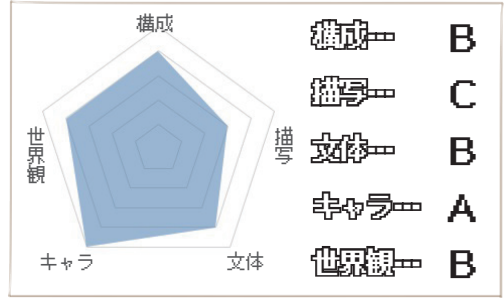
大衆小説

ファンタジー

和風

## 闇群れに蛇

人と人ならざる者のあざなえる物語



価格 600円

ブース B-05

著者 るく

Twitter: @kizahashi\_te1

ウェブサイト: <http://kizahashi6.web.fc2.com/off.html>

ウキヨミ、と呼ばれる存在がある。

ウキヨミは悪しきもの。世に災いを成す存在。

夜と共に現れ、人の血と肉と骨を欲っして喰らう。

蛇骨、と呼ばれる存在がある。

蛇骨は人であり道具。ウキヨミを消す為に成された存在。

君は蛇骨。

さあ、この刀でウキヨミを滅しておくれ。

和風現代ファンタジー。





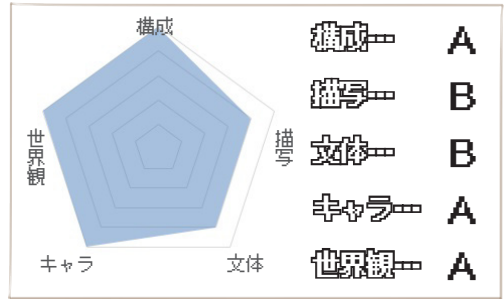
大衆小説

ライトラベル

吉本新喜劇

八奈結び商店街を歩いてみれば - 夏やで!

5人の少女少女が織りなす、なにわ人情お約束劇!



価格 800円

ブース B-12

著者 世津路章

Twitter: @compota\_nomoo

ウェブサイト: <http://compotanomoo.blog.fc2.com/>

夏の日差しが、八奈結び商店街のアスファルトを焦げ付かす。

アーケードも無い商店街の通りをじりじりと熱して、向こうを見渡そうとすれば像が姿をゆらりとくくゆらす。午後三時を過ぎた頃、涼しい夕風を期待するにもまだ少し遠い時間帯。

それでも微かな風が、どこかの店先の風鈴を鳴らした。呼応するように、あちこちで軽やかな音色が立ち上る。遠くに聞こえる蝉の合唱と相まって、ちよつとした演奏のようになる。

駄菓子屋の主人の小東さんが、うちわを仰ぐ手をゆっくり止めた。ふと見やれば軒先に吊るした小さい『氷』の掛け軸が、ほんの少し揺れて、じきにまた動かなくなる。小東さんは首にかけた白い手ぬぐいで、こめかみから垂れてくる汗をぬぐってから、よっこらしよ、と掛け声をつけて立ち上がった。

(…)

小東さんが一日で一番忙しい時間帯へ向けて、準備をしようと店先に出ると、果たして一番の常連が、向こうから走ってくるのがぼんやり見えた。頭の上に左右に結わえた髪をなびかせて、いつものように元気いっばいに駆け回る姿を、小東さんはよく知っている。小東さんだけじゃなく、八奈結び商店街の、誰もが彼女を知っている。

「おおい、かつちゃん。今日は氷なんにする」

その少女が聞こえるようなところまで来て、小東さんは声を張り上げた。でも少女は足を止めず、小東さんの前を走り抜けた。そのまま顔だけ振り向かせて、笑って見せた。

「今日な、いそがしいから要らへん!」

そして、ランドセルの冠をバタバタ言わせたまま、少女は通りを左に曲がっていった。

笑いながら、小東さんは溜め息を吐いた。あの娘が忙しいなんて言う時には、決まってひと騒動起こるのだった。

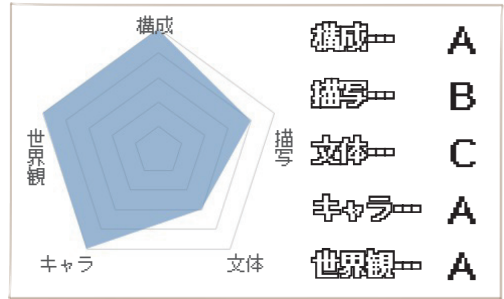
大衆小説

SF

独自の文学

## 蛮勇は世界を巡る

いつの時代だって、世界を動かしているのは、蛮勇だ。



価格 300円

ブース B-15

著者 犬吠埼一介

Twitter: @inbosk

ウェブサイト: <http://inbousaki-ikkai.kir.jp/>



小説：犬吠埼一介  
挿絵：芳村拓哉

「要件を片付けましょう。ティアストーンを私に従属させなさい。リー・ロージェン」

「んだと、テメエ……」

カグヤが切り出した言葉に、リーは思わず、怒りとともに拳を握りしめた。

ティアストーンは、プロジェクトリーダーである証であり、資格なのだ。それを従属させることは、プロジェクトの全権が彼女に吸収されることを意味する。

「なぜ、という顔をしているわね」

「そりゃそーだろ。ぶっ飛ばされたくなかったら詳しく話せ」

苛立ちを隠しきれないリーに、彼女はなおも挑発するような視線とともに、辛辣な言葉を浴びせた。

「あなた……どうして、こんなところにいるわけえ？ あなたともあろう人が。今ごろとっくに火星に……」

「黙れッ！」

最も触れられたくない、デイドリーマー内部の極秘事情を、どうしてだか、目の前のこの女が知っている。リーはこの日で一番の恐怖を覚えた。だが彼女はさらに言葉を続けた。

「火星のテラフォーミングに携わる、大規模開発船団のリーダー、プロフェッサー・ミズキの……お弟子さんでしょうか？ あなたは。なのになぜ、こんなところでオママゴトの箱庭を作って遊んでいるのかしら」

ぎりぎりと、歯を食いしばりながら、リーは彼女を睨み付けた。

「ママゴトじゃねー。立派な研究だ。デイドリーマーがありゃ、人は何も無理して遠い火星くんだりまで出掛けなくて済むんだよ」

「なぜ？」

「コストが掛かる、やりたいことを全部、この空間で叶えちまえばいい。絵に描いた餅だって、ここじゃたらふく食えるんだ。後は現実世界で、一人一人が食ってけるだけのちっぽけで安定したエネルギーがありゃいいのさ。火星植民が絶対必須なんていう話はデタラメなんだよ」

SF

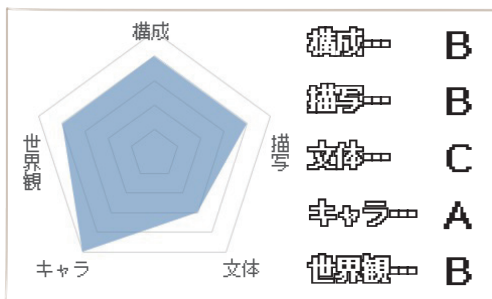
大衆小説

バイオロジ

紗那教授

## 百獣の女王

生と死の、バイオ系バトルアクション SF 小説



価格	500円
ブース	B-20
著者	紗那教授

Twitter: @prof\_shana\_GG3S

ウェブサイト: [http://blog.livedoor.jp/prof\\_shana/](http://blog.livedoor.jp/prof_shana/)

## 百獣の女王

「近寄るな……」

黒金の壁に飛び散る迷彩のような黒い血。ひび割れたタイルの上で、深傷から濁った血を流して横たわる奇怪な死体の山。質素な部屋に嗅覚を貫く臭いが充滿する。

骸は人の形をしているが、鼻は小石のように丸く、歯は牙と言ってもいいほどギザギザしている。耳は三角に変形していて、全身に茶色の毛を生やしている。生き残っている数人が四つん這いになって「ワン」と喚く。まるで犬のように。

いや、その風貌から犬そのものと言っても過言ではない。眉間にくしゃくしゃの皺を寄せ、理性なく吠える彼らの先に一人の娘がいた。年は二十歳ぐらいだろうか。艶のある短い黒髪。真珠のような気品ある白い肌。凛とした小顔と淡い桜色の唇。背丈は女性の平均程度だが、読者モデルにもなれそうな美麗な脚をしている。

その特徴とは裏腹に目つきは刀身のように鋭く、気弱な者ならばその眼光を浴びただけで怖気づいてしまいそうなのだ。彼女が身につけている看護服のような白シャツとパンツには黒ずんだ血がびっしり付着している。年頃の娘らしい柔らかく張りのある両手は肌色の存在を許さないほど赤に染まっている。

「いつまでこんなことを……」

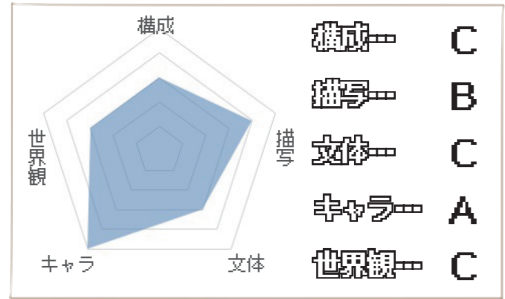
憂いを帯びた黒き瞳を光らせ彼女は呟く。犬なのか人なのか、どちらとも言えない風貌の青年たちが威嚇の鳴き声をあげて牙を剥く。彼らは獲物を追いかけるように彼女を囲い込む。

彼女の髪が徐々に金色に染まっていく。皮膚に浮き出た血管が、上昇していく体温と共に灼熱の赤へと変色していく。瞳はそれよりもさらに濃い紅蓮に染まる。犬男たちと比べると彼女は十分人の娘の姿を保っているが、滲み出るオーラには気高い野性の本能と殺気が滲み溢れている。

風貌を変化させた彼女と青年たちは互いの様子を窺い、黙ったまま対峙する。

## ギャラクシィ少年の社会見学記

夏休みのある日、僕たちは松山荘の門をくぐった。



価格	未定
ブース	B-26
著者	西乃まゆも

ツイッター: @marimobomb

ウェブサイト: <http://marimondou.web.fc2.com/>

夏休みのある日、僕たちは松山荘の門をくぐった。夏休みのある日、僕たちは松山荘の門をくぐった。夏休みのある日、僕たちは松山荘の門をくぐった。夏休みのある日、僕たちは松山荘の門をくぐった。夏休みのある日、僕たちは松山荘の門をくぐった。

ギャラクシィ少年の社会見学記 西乃まゆも

ギャラクシィ少年の社会見学記

「あー」

空高く打ちあがった羽は、まったく打ち合わせどおりに、塀を越えて例のお化け屋敷の庭の中に吸い込まれていく。

「ねえ、入っちゃったよ、まじで」

「うん、これはまずいな」

そう言いながらも満足そうな笑みを浮かべる来人のそばへ走り寄ると、僕はひそひそ声で言った。

「なあ。ほんとに、ピンポンするの」

「うん。羽、取らせてもらわないといけないし」

「やだよ、こわいよ。やめようよ。そうでなくても、得体が知れない家だから近づくなって親に言われているのに」

来人がどうしてこんなおかしな家に興味を持っているのか、まったく見当もつかなかった。

「別に犯罪者の家ってわけでもないだろ。古くて汚いっただけで」

「いや、案外、埋まっているかもだよ、アレが」

「アレって何」

「言わせるなよ。時々あるだろ？ 庭に、し、死体が……とかいうニュース。広いし草がぼうぼうだから、ここに何か埋まっても絶対わかんないよ。大体、夜中に叫び声が聞こえるらしいんだから。何が起こっても不思議じゃないって」

「でも、さっきのマドンナが着てた制服、月星学院の高等部のものだろ？ 月星学院って言ったら、この辺りで一番の進学校らしいじゃん。別にヤンキーっぽくもなかったし。普通だよ普通」

「それだってさあ、わかんないよ？ 人は見かけによらないっていう言葉、あるだろ？」

などと話し合っているうちに、後ろから突然「ねえ、きみたち」と声をかけられ、僕たちは思わず「わっ」と声を上げた。

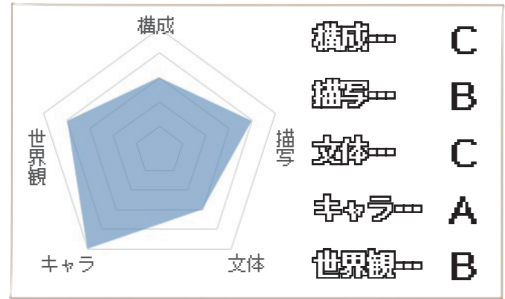
ファンタジー

掌編

無料配布

## 白亜の城

魔法の書齋へ、ようこそ。



価格 無料配布

ブース B-27

著者 三月

Twitter: @mi2keee

ウェブサイト:

はじめてさんの



文芸イベント!

文芸イベントデビュー  
最初の第一歩に追い風を!

第一回参加作家/なめこさん・三月さん

橙の明かりが揺らめいた。仄かに照らされた室内は壁一面が本に囲まれていて、奥には焦がしたキャラメルのようなビュロと、同じ色合いの木組みの椅子。ワインレッドの大きなソファは、体重を乗せればスプリングが悲鳴を上げるし、上の本が取れるようにと無造作に置かれた立て掛ける形の梯子は、ところどころ釘が錆びている。ビュロの置いてある壁に窓はあったが、本が焼けてしまうからと常はカーテンが引かれており、開けられるのは雨の日か、気紛れにほんの少しだけ外を見るときだけ。無駄なものはない、生活感のないこの部屋の主は、自らを魔法と呼ぶ魔法使いの女の子だった。魔法と言っても誰かの怪我が治せる訳ではなく、空が飛べる訳でもなく、少女が使う魔法は、自分のためだけのものだったのだ。少女は、幼いころから本が好きだった。彼女はこの書齋にある本の登場人物なら具現化させることができたけれど、すでに個々の意思を持った彼らが彼女のために振る舞ってくれることはなく、それはあまりに不完全な魔法だった。やがて彼女は、自ら文字を綴るようになった。自分の生み出した人物たちなら、もっと良い遊び相手に、話し相手になってくれるのではないかと考えたからだ。けれど彼らもまた、彼女の思うような相手にはなってくれなかった。どんなに気の良い人物たちも大抵二、三日すれば困ったように帰り道を探ねてくるから、それを無視してまでこちらに閉じ込めてはおけなかったというのが彼女の本心で、つまり彼女は優しすぎたのだ。そうやって何年もの失敗を重ねて、部屋から見える景色を何度も見送って、一つの可能性に気が付いたとき、季節は実に十七回目の冬を迎えようとしていた。

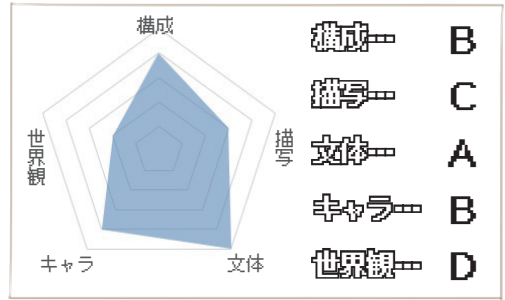
純文学

学編

無料配布

## さいごの夏

帰り道、分かりますか？



価格 無料配布

ブース B-27

著者 なめこ

Twitter: @lvknty133

ウェブサイト: <http://chain-of-fools.holy.jp/fools.html>

# はじめてさんの



# 文芸イベント!

## 文芸イベントデビュー 最初の第一歩に追い風を!

第一回参加作家/なめこさん・三月さん

それでも心臓は動き続けていた。

ついさっきまであれほど耳障りだった蝉の鳴き声がいつの間にか遠ざかっていった。じきに夏も終わる。その夏の残骸のように赤や緑や黒の光が弾けては消え、消えては弾けていた。どこからともなく転がり出てくる頼りない小さな星は、腋の裏にぶつかると、ぱちんと音を立てて見えなくなる。星は、次から次へと現れ、次から次へと消えていった。それは一定のリズムを刻んでいるようだった。むしろ、それは歴然と心臓の鼓動に一致していた。

「重いんだけど。」

慌てて身を起す。「痛い。」と続けて声が上がるのは、咄嗟に手をついたとき、爪の先に引っ掛かった感触のせいだろう。

「起きてたの？」

返事はない。もしかすると、それとなくわたしを語るような気息さに塗り込められたうなずきや目配せで、肯定の意を伝えていたのかもしれないが、わたしは眩しくて目を開けていられなかった。

朝の陽はある悪意をもってイクコさんの体を浮き上がらせているはずだった。

イクコさんの、少しかたい乳房。瘦せぎすの少年みtainな腰骨。わたしのに比べればすつきりしすぎているへそ。いつもどこかに青痣のあるすね。イクコさんの体のひとつひとつの部位は、それぞれが同じ一つの体に収まっているとは思えない生々しさをわたしに感じさせる。いつかイクコさんに借りて読んだ本に、「女性ホルモンを注射したゲイボーイのような胸」というような文句があった。わたしにはゲイボーイの友人もいなければ、女性ホルモンを注射したゲイボーイの胸がどの程度のふくらみをもつものなのか、知識もない。けれどその件を初めて読んだとき、イクコさんの体を思った。

美味しいファンタジー

「ミス・アンダーソンの安穩なる日々」

世津路章  
(こんぼた。：B-12)

ある日、羊耳シヨタ騎士執事のアーティが命令されたのは、人類最強といわれる女傭兵の抹殺！？「はわわ」と言う間に退路を防がれ、なぜか始まった宿敵との居候生活。軽やかなラブコメ異世界ファンタジー。

気高く優美な汚宅の住人、女傭兵アンナ・L・アンダーソンや、上述のあざとかわいいうアーティ、アンナの幼馴染ダグリズ（一押しです）など、個性豊かなキャラクターたち。『まろやぎチーズのホットサンド』『乳白星のシチュー』に代表される、オリジナリティにあふれた、心のこもった美味しい料理の数々。あつたかいものに癒されたら、わくわくする冒険の時間が待っています。食べ過ぎにはご注意ください♪

(紹介者：あずみ)

高田純英感一〇〇%！ ドタバタおねシヨタファンタジー！

「ミス・アンダーソンの安穩なる日々」

世津路章  
(こんぼた。：B-12)

魔法を使う魔族と使えぬ人間、両者が争い合う世界で、なぜか人類最強の女傭兵・アンダーソンを「抹殺」しなければならなくなった、「マ」シヨタ執事・アーティの奮闘を描いた物語。

大丈夫です。バカです。頭かるーくお読みいただけます。バトルとか少ない目で、ごはながめっちゃ多いです。

第一巻読切でも全然大丈夫ですし、続編が今秋から先行してWEB連載になりますので、そちらもぜひぜひ！

(紹介者：世津路章)

かわいくて美味しそうで、ファンタジー！

「なないろ世界の食歩記」

世津路章／相橋いぐあな／服部匠／他  
(こんぼた。：B-12)

どこか遠くに行きたい時に、純粹にそこに行きたいという気持ちと、なんか普段食べられない美味しいもの食べたいなーっていう気持ちと、あるじゃないですか。それで、じゃらんとか読むじゃないですか。

そんな楽しみを両方とも満たしてくれるアンソロです。くう。食べたいて思っても食べられないっていうのが、また食べたさを増してくれます。

(紹介者：相沢ナナコ)

まさか、ここでこれに出逢えるなんて……！

「LAPACEREVOLUTION」

なのり／まりも  
(a placere：B-26)

こちらは無料冊子。いただいたのが申し訳ないくらい、何度も読み返しています。ざらりと読める分量ながら、じっくり物語の後味に浸れる現代もの二篇。

『コハノチカー最愛の人』強気な女の子一人称の語り口がくすぐったく心地良い、フォークダンスがテーマの小説。民族舞踊を扱ったお話、ずっと読みたいと思って探していたので、嬉しくて頁を捲るのが勿体なくて仕方なかった…。入門編として申し分のない入りやすさですが、webで本編も読めるよいうなので、時間を見つけて必ず読みたい。

『Girlsonstage』こちらは胸がすくくと痛くなるような、ささやかに尖った、女の子同士の友情を描いたお話。百合というほど百合ではない、言葉にならない、リアルなこころの動き、このさびしさの配合……！なかなか、ちょうどいいところ、をくすぐってくれる小説に出逢えないので。この絶妙さ、大好きです。

(紹介者：あずみ)

この厚みでこのお値段⇒超お買い得だよー！

## 「流星」

ティッコの星  
(ティッコ星：B-50)

彩川花さんの少女期を上手く表現する手腕。宝栄光さんの複雑さの処理の鮮やかさ。ごさささんも凄い

(紹介者：コットン(シンジンするZINEの編集人))

早くデビューしてくださー！

## 「DAISYCHAIN 通巻十二号」

梅田順平 / 彩世梨緒 / 瑞穂はじめ / 他  
(DAISYCHAIN 製作委員会：B-56)

小説の他に、漫画や切り絵なども載っている、エンタメ色満載の団体誌「DAISYCHAIN」。瑞穂はじめさんのファンなので毎回買っています。こちらの号掲載の『美に沿う形』は、美大生のお話。描いても、描いても、壁を破ることができない…。主人公平野の生き様、仲間たちとのやり取り、青春と言うには苦すぎる日々、そして美術界の間。全部がリアル過ぎて、フィクションと割り切れず、途中、号泣しました。取材力、構成力、描写力、テーマ、共感性…。すべてが圧倒的。お金に困った時、瑞穂さんが人気作家になっていて、プレミアがついていたら…。このバックナンバーを、売り…。ませんか。ど、おにぎりくらい恵んでください…。

(紹介者：あずみ)



# フアンタジー

冬になると、僕らは下水道に逃げ込む。路地裏より幾分、あたたかいからは眠る。拾った毛布に、ふたりで包まる。少しでも寒くないように、寄り添い合って、僕は眠る。

あちこちに罅の走る、煉瓦造りの、古い下水道だ。緩慢な水の流れが、ひたひたと満ちる静寂に、ささやかなノイズを添えている。空気は薄く、僕らの呼吸は自然と速まっていく。

仄暗い洞の中。僕は想像する。黒く濁んだ生温い水の中で溺れる、魚になった自分を想像する。うとうとと、まどろみながら。

(……来た)

——「バベット・チルドレン」(著者・咲祈) 抜粋

- |      |                 |      |                      |
|------|-----------------|------|----------------------|
| C-01 | 浮草堂             | C-14 | ふえにとら!!              |
| C-02 | ヨモツヘグイニナ        | C-15 | ショボ〜ン書房              |
| C-03 | さらてり            | C-16 | Text-Revolutions 準備会 |
| C-04 | 箱庭製作所           | C-17 | レティーとミティー。           |
| C-05 | WindingWind     | C-18 | Totentanz_Rosenkranz |
| C-06 | 無重力叢書           | C-19 | 妄想の中の現実              |
| C-07 | アズライト           | C-20 | 月刊さかな                |
| C-08 | 絵空少女            | C-29 | サクラ伎                 |
| C-09 | 本場の歩登屋          | C-30 | エウロパの海               |
| C-10 | Natural maker   | C-31 | アメシスト                |
| C-11 | 桜火 - sakurabi - | C-32 | ちいさま文庫               |
| C-12 | 世界構築中           | C-33 | 螢石                   |
| C-13 | Project 想音      | F-11 | カナメスタジオ              |

G

01 02 03 04

G

05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

G

15 16

F

20  
19  
18  
17  
16  
15  
14  
13  
12  
**11**  
10  
09  
08  
07  
06  
05  
04  
03  
02  
01

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

E

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

E

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

D

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

D

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

C

**01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14**42 41 40 39 38 37 36 35 34 **33 32 31 30 29**

C

**15 16 17 18 19 20** 21 22 23 24 25 26 27 28

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

B

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

B

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15

A

14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

A

すごく新しい歴史教科書

# 日本史C

唐橋史ほか十七名のゲスト（浮草堂：C-01）

■歴史小説アンソロジー

日本史C

すごくあたらしい  
歴史教科書



史文庫

歴史

アンソロジー

あらすじ

「誰も知らない歴史、教えますー」

中学校や高校で手にしてきた教科書には載らないような、或いは載せられないような、載るはずがないような（誰も知らない）日本史をテーマにした歴史小説のアンソロジーです。参加者は総勢十八名。

舞台は弥生時代から昭和までを一挙に網羅。知られざる日本史を題材にした珠玉の作品を掲載しました。

執筆者たちの大胆な解釈（あるいは妄想？）を思う存分、お楽しみ下さい。

“歴史小説は苦手” そんな人にこそおすすめ！（紹介者…なな）

歴史小説って、ちょっととつつきにくいというか、堅苦しいイメージがありました。

歴史に詳しい人や好きな人じゃないと読むの難しそう、みたいな。

『日本史C』は、そういう変な壁をぼんと乗り越えて、歴史小説も面白い！楽しい！って思える本です。

掲載作品には本格的な歴史小説はもちろん、時代小説、FTやSF風味な作品もあり、読んでいて飽きません。誰もが知ってる歴史的事件の意外な裏側みたいなのも興味深かったですし、歴史には残らない普通の人々の生活が垣間見える作品も素敵でした。時代背景を重視するものもあれば、意外とキャラクター重視な作品もありで、本当に多彩。

どこまでが創作でどこまでが本当の歴史だったのか……想像するのも楽しいですし、本当の歴史について調べるきっかけにもなるしで、歴史小説にはいろんな楽しみ方があるーそれを教えてくれた『日本史C』は、歴史小説の入門書みたいな感じですよ。

歴史小説が好きな人よりも、むしろ苦手な人に、最初の一冊としておすすめ。

もちろん歴史大好きって人も楽しめると思います！

ふ  
ち

# 淵

孤伏澤つたみ (ヨモツヘグイニナ…C-02)

# 淵

仰ぎ見やからくり箱をねだる子のハイビスカスの樹下に寝そべる

BL

詩歌

あ、らすじ

産卵をせよ右腕の刻印に僕らはいつでも  
ふたなりの蜘蛛(かみさま)この産)

朝起きて終末論が学校を覆っていたら君  
の勝ちだね(Rと屋上で)

餓えた雛だといつか知らされてアナタア  
ナタと喚く地下街(湿度)

声ひそめ、いずれ共寝の日もあるか棧橋  
からの付文である(神代にて)

BL 短歌四十六首収録。

Twitter「#BL短歌」にてツイートしたも  
のを中心にまとめています。

残部僅少のため、お取り置き優先となり  
ます。

ご希望のかたいらっしゃりましたらお声  
がけください

深い海のそこに、どんどん潜ってしまう（紹介者：壬生キヨム）

サークル名の「ヨモツヘグイニナ」は、南太平洋の深海に棲む巻貝に名付けられた名前だ、これは日本神話の「黄泉戸喫（ヨモツヘグイヒ）」が元となっているようです。「黄泉戸喫」とは、「黄泉の国の食事をする」とのこと。

孤伏澤つたみさんの作品は、まさに深海を深く潜っていくような、深い闇を感じます。闇の中では、人間が観測もできない出来事が日々起こっているのだと思います。世界は人の知っていないいきものばかりではない、ということを感じさせてくれる世界観が魅力です。

「淵」は、つたみさんがツイッターでハッシュタグ「＃B」短歌をつけてつぶやいた短歌四十六首が収められています。

「B」とは、ボーイズラブの略で、一言で言えば男性同士の恋愛を描いた小説や漫画などを指します。つたみさん、また私壬生が参加した世界初のB短歌を取り扱ったマガジン『共有結晶』では、B短歌を「57577に萌えをぶっこむこと」と定義しています。またこちらのマガジンで「B」とは、男性同士に限らず、「関係を描いており、それに対して萌える」とができるもの」としています。

男にも生まれられずにぼくたちは風切り羽に傷ばかり負う

（かみさまごっこのだ）

「男にも生まれられずに」というのを素直に受け取ると、この短歌の主人公は女性と考えられます。空を飛ぶために必要な「風切り羽に傷ばかり負う」ということは、自由に飛べない不自由な状況を詠んでいるのかな、と思いました。

腹にサイダーの王冠押し付けて没落からの王様ごっこ

天使には聖歌隊すらいると聞く。熟れた林檎のような手術痕男にも生まれられずにぼくたちは風切り羽に傷ばかり負う

（かみさまごっこのだ）

消えない傷、しかも他人につけられた傷がある。特に「腹にサイダーの王冠押し付けて」が萌える。肌を見せているのである。しかも、腹という、普段は見せていないであろう場所を。「押し付けて」という控えめな言葉からは、振り払おうと思えば振り払えるのに、そうしない二人の関係が妄想できて、萌える。

「登場する人物の性別にこだわらない」と記述しましたが、私がつたみさんの短歌の魅力だと感じるのは、「人の世界」というものにもこだわらない世界観だと思います。これについては、本を手にとって確かめください。

# よるべのない 物語

キダサユリ (箱庭製作所：C-04)



純文学

ファンタジー

あらすじ

少女が最も孤独を感じるのは、そんな瞬間です。この世界で落下し続けているのが自分だけだという実感は、死に等しく恐ろしいものなのです。

(「落下」より)

空中を落下し続ける正体不明の少女、突然身体にうろこが生えてきた少年、鶏に求婚された養鶏場の娘……不条理な運命を生きる者たちの、奇妙でちょっと寂しい五つの物語。

心と身体によるべなさをテーマとした、著者初の短篇集です。挿絵付き。

# まじりあうこと

(紹介者…キリチヒロ)

## グロテスク

という言葉を聞くと日本人は「気持ち悪い」であるとか、人によっては「スプラッタ要素」を思い浮かべる人が多いのではないだろうか。だけど実はこの言葉、西洋美術史という観点から見るともう少し具体的な意味がある。

それは、「人間の体と動植物の形がまじりあった装飾様式」。

本来確固たる形を持った人間の体が、端のほうから蔦や獣の手足に侵食されていく。自分がわけのわからないものになっていく。溶けだされていく。そんな本能的な怖れであったり、嫌悪感であったり、そういう感覚だけが強く残り、現在に至る「気持ち悪い」という意味に転じたのではないか。と個人的にはぼんやり思っている。

本作「よるべのない物語」は、そういう意味での「グロテスク」な作品だと紹介させていただきたい。これはまったく、デイスリではないですよ、キダさん。

本作品は五つの掌編から成る短編集で、キダさんによる挿絵もついている。それぞれの物語において、「何かとまじりあうこと」が描かれている。夜という大きくて形のないものと、トカゲや鳥、花という生き物たちと、「自分」がまじりあっていく。外側から染み込み、内側から溶けだしていく。この本の中では、夜空や動植物たちは決して人間の背景ではなく、限りな

く対等なものとして存在している。畏敬の念すら感じさせるその在り方は、ひとえにキダさんが持つ、自然への深い愛そのもののなのだろうと思う。

ちなみにキダさん、インスタレーション\*のご経験もあるという。インスタレーションにおいて迫ってくるのは空間そのものである。そこでは「体験」が強制化される。そこにいるだけで、自分も作品の一部であるかのような気までしてくる。この「よるべのない物語」も、そんな力を持っている。私がこの本を手取ることで、ページをめくることが、この手の動き、それも含めたすべてがキダさんの表現であるように思えてくる。この本には空間を形作る力がある。本という形をした、立派なインスタレーション作品だ。

そして私は、読者は、この本に取り込まれていく。外側から染み込み、内側から溶けだしていく。しずかに、まじりあっていく。

\*ある特定の室内や屋外などにオブジェや装置を置いて、作家の意向に沿って空間を構成し変化・異化させ、場所や空間全体を作品として体験させる芸術。(Wikipediaより)

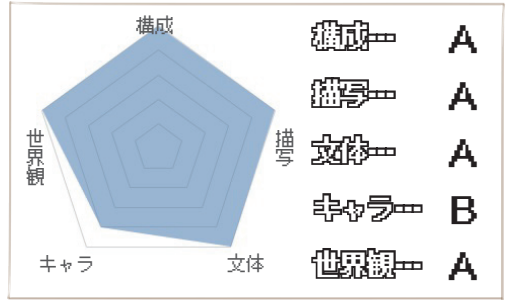
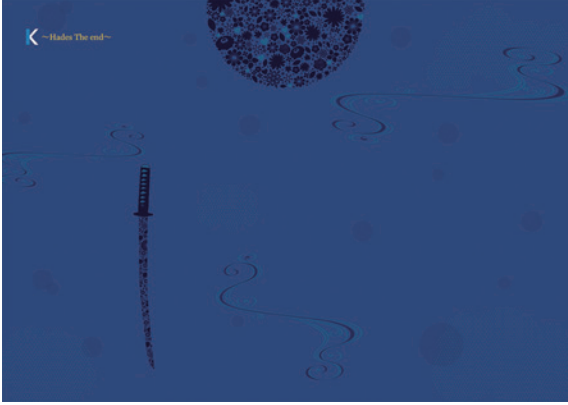


ファンタジー

大衆小説

## K ~Hades The End~

戦争屋一族の息子が反乱！？



価格 200円

ブース C-01

著者 浮草堂美奈

ツイッター：@ukikusado

ウェブサイト：http://zankokusyosan.moe.in/

戦場は包囲戦となった。

そうなるまでに、一週間でよかった。当然、こちらが包囲する側だ。これがスだ。

THUKIは自軍の陣で、深く頷いた。

もうすぐ、敵軍は墜ちる。

昨日は二番目の弟、ROKEが霊魔滅殺隊を率い、敵のトロールの鉾山を廃墟にした。同じ日、末の弟、KOSEが、人機滅殺隊を率い、敵軍の戦車隊を壊滅させた。

「YOKIー」

「分かった！ 親父！ 俺が先陣だ！ 突撃いいいい！」

兵糧攻めなどしない。突撃につぐ突撃を。

勝負は迅速に、そして、残酷に。

YOKIがオレンジの髪にヘルメットを被り、疾っていく。

すぐさま敵の弾丸が、YOKIを狙って降り注ぐ。

YOKIは太刀を抜き。

それらを、斬った。

あり得ない、と敵軍が唾然とする。

無理も無い。

前回、弾丸を斬ったところを見た兵は、もうみんな死んでしまっているのだから。

「バリケード落とせええええ！」

三千は超えるであろう、敵軍に向かい、YOKIはかっぺ口を開いて怒鳴る。

AK47のロバーを握りしめ、敵兵は一斉に撃ってくる。

砂塵に視界が悪い。

風が熱い。

この熱風は、敵軍の生きたいという、意思だ。

命のあらんかぎりの叫びだ。

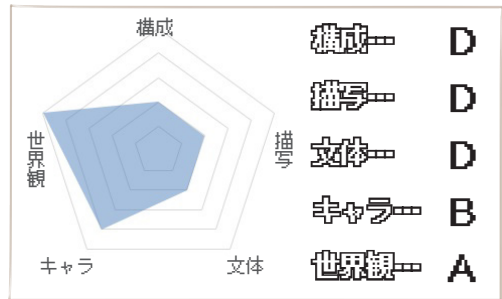
それを、YOKIは、一閃した。

ファンタジー

BL

## 幼神

茨野に降りた神とその片割れと。人間のことも、少し



価格 750円

ブース C-02

著者 孤伏澤つたぬ

Twitter: @tutai\_k

ウェブサイト: <http://www.pixiv.net/member.php?id=5319976>

## 幼神

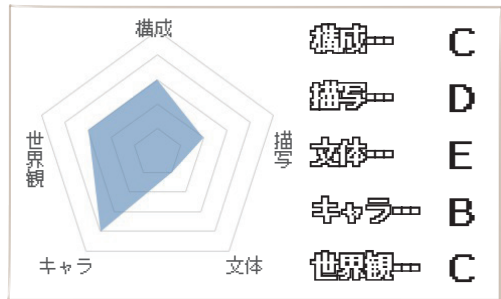
「……ほんとうに、おまえは理想的な神だよなあ。与えるものをひとつも持たず、うつくしいそのことだけをたのみに、ほとんど完璧な俺にこんな世界をつくらせるんだから。ここを整備したことで俺はおまえに愛されたいとか、感謝されたいとかは思っていないんだ。むしろ押しつけがましい俺を、おまえは拒んでくれると信じているよ？ おまえにはそれしかないだろう。この茨野においては完全なる神たる俺を敗北させることは、そのほかないんだよ。おまえは一切の侵犯をゆるさぬ絶対の存在として約束の時まで、遊んでいればいい。俺はおまえが、おまえ自身を愛しおまえ自身の祈りをのみ聞き、望み、欲望している姿を眺めていられたらそれで満足できる。おまえがおまえにだけ向ける呪いのような慈愛の笑みを渴望し、苦しみ痛んでいた。——出来損ないであるがゆえに俺に庇護されておまえだけが愛し汚し清めることをできないのだと、見せつけてくれ。それだけが、ここでおまえを神たらしめる唯一のうしろ盾だよ。人間はこわいだろう？ おまえに似せてつくったんだ。ひとりでは神として自立できない出来損ないが神様ごっこをできるように。——そろそろわかるころじゃないか、この世界は出来損ないの神なんて簡単に壊せるってことも。俺のつくった世界はおまえがいま立っている高潔な場所から引きずりおろして同等のものとしてぞんざいにあつかうことだってできる。それをしないのは愛と慈悲と侮蔑ゆえだよ。愛されることですか、おまえは自分の存在をたもてない。俺のつくった世界は、不完全で欠陥だらけの出来損ないの神を、愛しはしてもおそれないから」

これがおまえが自分のことだけ考えてそのおきれいなうつつわをつくったときに望んでいた場所だよ、とあには囁いた。

「気に入ったんならうれしいし、こんなものはいらないと思ってるんなら俺は幸せだよ」

## 七つ輪

少年は静かに、世界を滅ぼしかねない騒動に出会う。



価格 300円

ブース C-05

著者 風城国子智

Twitter: @sxisato

ウェブサイト: <http://windingwind.hacca.jp/>

藁の絡む、陰になった路地の壁に埋め込まれた扉を、力の籠もらない腕で押し開く。霞んだ瞳に映ったのは、夏の名残を留めた草が不規則に生える地面と、その地面の所々に並ぶ小さな石の碑、だった。

ここ、は。暗闇に引き込まれそうになる意識を、何とか明るい方へと持ち上げる。ここは、確か。……墓地、だ。慣れない道に迷い、寄宿している伯母の屋敷ではなく、その反対方向、皇城の裏手にある、皇国に仕える騎士達を葬る場所へ辿り着いてしまったらしい。

ずきずきと、脈打つように痛む左腕を、そっと見やる。黒く見える血は、既に止まっている。しかし、痛みと熱が、じわじわと全身を蝕んでいる。早く、屋敷に戻らなくては。頭はそう、叱咤するのに、身体は全く言うことを聞かない。ふらふらと、何かに誘われるように、草地に刻まれた道無き道を歩く。足を止めた場所は、この皇都を訪れてすぐ、伯母に誘われて足を運んだ、父が眠るといふ場所。

ここに、会ったこともない父が眠っている。草に埋もれた、小さな石碑を、ただ見詰める。胸に去来する感情は何故か『悲しみ』ではなかった。空虚、としか名付けられない、どこか空々しい、想い。

ゆっくりと、晩夏の太陽が影になって落ちてくる。  
暗闇の優しさに、ライは静かに身を委ねた。

七つ輪

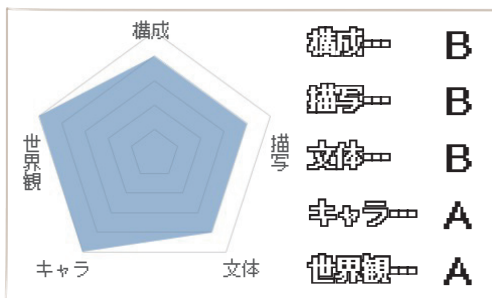
ファンタジー

ミステリー

大正浪漫

## 黒渦 -CLOSE-

黒く渦巻く刻は永遠に



価格 700円

ブース C-31

著者 天海六花

ツイッター: @6ka6ka

ウェブサイト: <http://lyufayran.arrow.jp/>

鋭利なもので掻き切られた喉から、ひゅうひゅうと空気が漏れている。血だまりの中から苦しげに呻き、自らの運命を受け入れようとせず、救済を請い、求める。

「助け、て……タスケテ……お願、イ……」

手に付着した「血液の汚れ」だけを執拗に気にして、彼は足元に横たわる者の声など聞いてもいない。まるで耳に入っていない、彼の意識下ではそんな者は存在していないかのようだった。

そんな彼のすぐ傍で、彼女は興味津々といった様子で、その者を見つめている。

「ふうん……助けてほしいの？ 命が惜しいの？ でもあなたを助ける価値、無いわよね？ だってあなたは「汚れて」いるんだもの。『キタナイ』の」

「助けて……助け……」

自らの体内から溢れ出した血だまりの中から、懸命に救済を懇願するその者は、血に塗れた手を伸ばす。

「ふふっ。どうする？ この子、助けてほしいんだって」

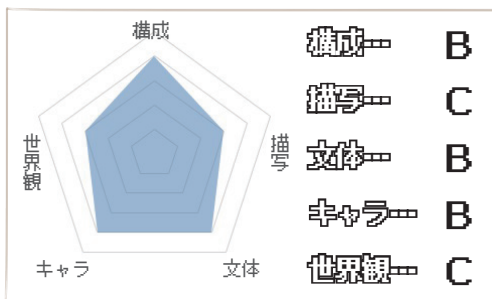
彼女は彼に妖艶な笑みを向ける。彼は彼女に促され、初めて表情を変化させた。

感情表現の乏しい彼の見せた初めての感情——疑問。あるいは、不審。



## Heavenly Blue

あなたがいるから、わたしは立ち向かえる



価格 700円

ブース C-31

著者 天海六花

Twitter: @6ka6ka

ウェブサイト: <http://lyufayran.arrow.jp/>



「な、何ですか？ また調査の時間ですか？」

「違うよ。誰かに呼ばれた気がしたから来ただけ。お前が僕を呼んだの？」

少年はズカズカと無遠慮に室内へと入ってくる。そしてシャーリーの前で立ち止まった。

「僕を呼んだでしょ？ 用は何？」

「わ、わたしは別にあなたを呼んでなんか……」

「嘘だ。頭の中に直接声を響かせて、僕を呼んだのはお前だ」

少年が断定する。しかしシャーリーは反論した。

「わたし、呼んでません」

「呼んだ」

「呼んでないわ」

「呼んだじゃん」

「もうっ！ 呼んでないってば」

「呼ばれなきゃ来ないよ！」

呼ぶだの呼ばないだの、無意味な押し問答が続き、最初に飽きたのは彼だった。

「もういいや。面倒くさい」

少年は断りもなしにシャーリーの隣へストンと座る。シャーリーは驚いて身を引いた。

「な、なんなの、あなた？」

「僕？ 僕はノエル。お前はシャーリーだっけ？」

「名前を聞いた訳じゃなくて……」

シャーリーはノエルを恐る恐る見つめながら、ぐっと口を閉ざす。

彼は一体何をしにきたというのだろうか。呼ばれたとはどういう事なのだろうか。

考えても埒が明かず、シャーリーは彼の様子をこっそりと伺った。

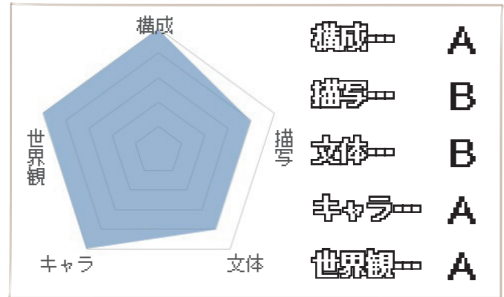
白みの強い亜麻色の髪と、青い瞳。陶磁器のような白い肌と、細身の体。研究員とは違った青い短衣のジャケットにスラックス。このラボの研究員というには明らかに違う雰囲気少年だ。もしかして自分と同じように、禍人として捕らえられた者だろうかとも考えたが、あの日、自分を捕まえたのはこの少年だ。やはり彼はラボ側の人間と考えた方がよさそうだ。

SF

退廃的

## パペット・チルドレン

死にかかった世界に生きる、死なない子供たちの物語



価格 600円

ブース C-33

著者 咲祈

Twitter: @frosty\_wing

ウェブサイト: <http://frosty.holy.jp/zero/>

## 【序幕 子供狩り】

冬になると、僕らは下水道に逃げ込む。路地裏より幾分、あたたかいから。拾った毛布に、ふたりで包まる。少しでも寒くないように、寄り添い合って、僕らは眠る。

あちこちに罅の走る、煉瓦造りの、古い下水道だ。緩慢な水の流れが、ひたひたと満ちる静寂に、ささやかなノイズを添えている。空気は薄く、僕らの呼吸は自然と速まっていく。

仄暗い洞の中。僕は想像する。黒く濁んだ生温い水の中で溺れる、魚になった自分を想像する。うとうとと、まどろみながら。

(……来た)

遠く、不揃いな足音が聞こえて、僕は、伏せていた顔を、ゆっくりと上げた。近づいてくる、ざわめきと光。充滿する闇が、交差する光に払い除けられていく。暗がりに慣れた目に突き刺さる、サーチライトの光。静寂を掻き乱す、怒声と悲鳴。

「お兄ちゃん」

妹のメイが、不安そうな瞳で、僕を見上げる。もうあまり見えていないのだろう、焦点の合わない、僕と同じ翡翠色の瞳。骨ばかりになった幼い腕が、ぎゅつと僕に、しがみつく。大丈夫だよと、僕は微笑む。痩せたメイの頬に右手を添えて、左手は頭を撫でて、抱き寄せて。

「どこへ行きたい？」

僕は囁く。途惑いを含んだメイの吐息が耳に触れた。

微笑を崩さないまま、僕は続ける。

「どこへでも、メイの好きなところへ連れて行ってやるって言ったら、どこへ行きたい？」

足音が近い。光が、ちらちらと傍を掠めていく。もうまもなく、彼らは僕らを見つけるだろう。

ちよう世界史！

# 「世界史C」

唐橋史ほか  
(洋泉堂：C-01)

すみません、未読です…。でも馬鹿売れしていると聞きました。そのうち世界史C御殿が建つと思います。楽しみです。

(紹介者：相沢ナナコ)

神なんて脆い

# 「幼神」

孤伏澤つたぬ  
(三ツモツヘクイニナ：C-02)

「あのひとは片割れに似せて人間をつくらったというけれど、俺たちは人間の真似事ばかりしている」

白い世界からきた神とその片割れと、少しの時間を過ごす人間のこと。

(紹介者：孤伏澤つたぬ)

読みにくさがたまらない一冊！

# 「星の挽歌」

石井穂子  
(シンポーン書房：C-15)

恋愛メインのストーリーと歴史（古文書解説版）という2つのパートが交互に進んでいく物語。

歴史パートが読みにくい。読んでも

読んでもなかなか意味がわからない。

注釈がたくさんあって何度も何度も読み返す。でもそれが面白い。解説する

面白さが楽しい。

そして読みにくさに疲れた心に素直に響く恋愛パート。心情描写がぐっと

きます。働く女性のやさぐれ感や見え

ないところのかわいらしさがたまらない。

あと後書のパンツ。

注）『自由の翼』シタルキア創国記序章

〜の外伝なので本編を先に読んでな

いとわかりにくいです。

(紹介者：なな)

不条理+記憶喪失+ファンタジー  
期待せざるを得ない

# 「暗喩の箱庭、アニミスト」

組鐘ヒムネ  
(Totentanz Rosenkranz：C-18)

あるところでレビューを見つけた、去年からすっごく気になっていたのが今年ゲットできるのが楽しみです…！

不条理ファンタジー、という響きだ

けでもゾクゾクするのに、主人公の意

識がふたつの世界を行き来し翻弄され、

しかもバッドエンドで終わる…なんて、

どんだけ救いがないんだろう、と武者

震いが止まりません…！！ 表紙を埋

め尽くす赤のイメージが、容赦なく叩

き落としてくれそうで、心待ちにして

います…！！

(紹介者：世津路章)

透明感のある世界を登場人物達が彩る

## 「羽人物語」

咲折

(巻石：C-33)

読み始めたら止まらず、一気に読み終えてしまいました。

世界観は絶望や哀しみを含んだ透明感があり、登場人物達は硝子細工を彩る色のようにそれぞれの色を持ってこの世界に生きている。それぞれのエピソードの密度がとても濃いです。

登場人物達の切なく、複雑に絡み合った運命が至る物語の終着点は色々感じるものがあります。

この方他の作品も読んでみたいですね。

(紹介者：あづみ伊織)

滅びゆく空中都市を舞台に織り成す願いと祈りの物語

## 「羽人物語」

咲折

(巻石：C-33)

《方舟》と呼ばれる空中都市を舞台に、《戦闘機》として空でたたかう少年少女を縦糸に、倡伎として夜を舞う少年少女を横糸に織り成す、いささか哀しい、願いと祈りの物語。

ほんのりSF色のある和風ファンタジー小説です。

(紹介者：咲折)



B o y s

L o v e

「その子とはつき合えたんでしょ？ だったらって思わないの？ その、祈吏ちゃん  
の代わりとかそういうのじゃなくて」

「そんなこと言われたって、あの時の下田さんの向こうには祈吏しか見えなかった」  
「……重症だね、知ってるけど」

「春馬と一緒だ」

どこか無然とした思いを隠せないままそう呟きながら、ぼす、と力無くクッション  
を殴る。大体なんでこんな話してるんだ、こんな真面目なトーンで。窓の外からは近  
くの小学校が流しているらしい注意喚起放送が流れていて、あま苦いこんな気分を華  
麗にぶち壊してくれる。

——「ジェミニとほうき星」(著者・高梨来) 抜粋

- D-30 ソライロメトロ
- D-31 ひだり。
- D-32 殺戮系男子症候群
- D-33 午前三時の音楽
- D-34 hydra / blue
- D-35 梅竹堂
- D-36 名越野大学文芸部

G

01 02 03 04

G

05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

G

15 16

F

20  
19  
18  
17  
16  
15  
14  
13  
12  
11  
10  
09  
08  
07  
06  
05  
04  
03  
02  
01

E

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

E

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

D

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

D

42 41 40 39 38 37 **36 35 34 33 32 31 30** 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

C

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

C

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

B

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

B

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

A

28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15

A

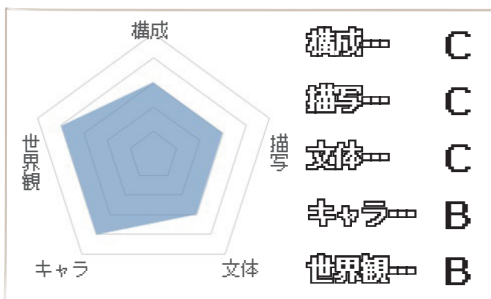
14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

出入口

BL

## エレウシスの出血 / 上巻

これは僕達の復讐の物語だ。



価格 900円

ブース D-32

著者 黒井メラ

Twitter: @kuroinoowari

ウェブサイト: <http://nanos.jp/ukamukowai9/>

か弱い少女の上げた痛ましい悲鳴の残響に、少年らがどっと沸いた。——いやだ。もういやだ。お願いだからもうやめてくれ。ナオは祈るような気持ちで、情けなく硬直しきった顔つきでその光景を見ていた。見せつけられていた。聞きたくないのに、見たくないのに、全身がもはや緊張しきって臉を閉じる事もできない。もつとも、目を塞いだところでこじ開けられるのだろうけれども。助けたくとも、只こうやって震えているのが現状だった。卑怯でどうしようもないが、ナオはひたすら祈った。少女の為に祈り続けた。無様で無力な傍観者でしかない自分を侮蔑した。今すぐにでもこいつらを退ければ、少女への虐待は止むかもしれない。しかしそれは同時に、自分に彼らの矛先が向く事を意味している。やめてくれ。もうやめてくれよ。頼むから。

自分よりも小さな女の子が目の前でこんな目に遭っているのに、でも、どうする事もできないなんて。次第に何の反応も見せなくなった少女に飽きたのか、彼らの悪意がこちらに向くのには時間はかからなかった。



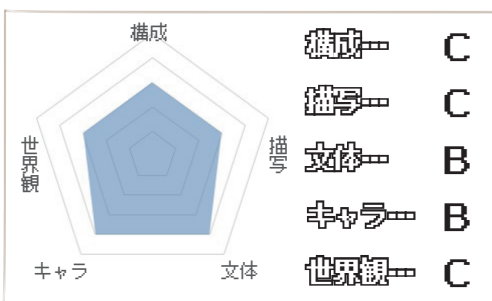
恋愛

大衆小説

歳の差

## ピアニストの恋ごころ

ピアニストの彼と、まだ何者にもなれない私



価格 600円

ブース D-33

著者 高梨 来

ツイッター: @raixxx\_3am

ウェブサイト: <http://lovelylic.ivory.ne.jp/3am/>

「どうでしたか、久しぶりの学校は」

「まあ……仲の良い子は休み中も会ってたし、特に。ちょっと見た目が派手になってる子が居るくらい？」

「いつの時代も変わらないよね、それは」

どこかまぶしげに瞳を細める横顔を見上げながら、私が生きる今は、彼にとってはもうとっくに通り過ぎた過去なのであるという事を改めて痛感したりもする。

長期休み明け、それも夏休み明けのあのざわざわとした浮ついた空気が、いつまでもたつても好きになれない自分が居るのは確かだ。日に焼けた肌を自慢しあう男の子たち、ピアスの穴が増えて、化粧が少し濃くなった女の子たち、大胆に色を抜きすぎた髪を隠そうとした痕跡の残る不自然に黒々とした髪に、ツンと鼻につくヘアカラーのにおい。汗や体臭、整髪料に化粧品や香水。それに、久しぶりに稼働した空調のどこかカビ臭いにおい。夏特有のムツとした空気にそれらが混ざりあった独特の臭気に含まれた中、長期休みに加えて、この季節の特有の解放感に後押しをされたクラスメイトたちが得意げに語り出す、まるで武勇伝か何かのような夏の思い出話にどこか辟易とした気分にはさせられるのが、この時期の恒例行事だ。

「桐緒さんはさ、海とかプールとか行ったの？」

「海は行ってないけどプールなら行ったかなあ。マキちゃんとクラスの友達と。荘平さんが」

「まあ、仕事でなら。花火とかは見た？」

「地元のお祭りのちっちゃいのなら、マキちゃん」と

「なんかさ、それだけ聞いてると俺じゃなくて日生さんと付き合ってるみたいだね」

「よく言われます」

「負けてるねー、俺」

責めるつもりはニュアンスはちつともなかったそのはずなのに。すまなそうにそう返すその表情を目にすれば、ちくりとざわつくように微かに胸が痛むのは仕方ない事だろうか。

「でもさ、俺だって桐緒さんの事、好きだからね」

それでも、拗ねた子どものように得意げに微笑みながらそう答えるのだから、途端に私の心は、ぎゅつとぎゅつと捕まれたかのような心地に襲われる。

「……知ってますよ」

「俺だって知ってるよ、ぜんぶ」

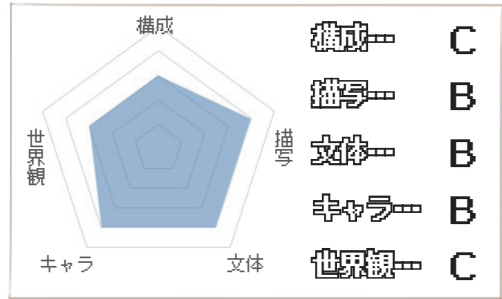
微かに耳が赤くなるのを感じながら、私はそっと目を逸らすようにして窓の外をぼんやりと眺める。

## ジェミニとほうき星

伏姫海吏、17歳。双子の姉に不毛な片思い

ジェミニとほうき星

高梨 来



価格 800円

ブース D-33

著者 高梨 来

Twitter: @raixxx\_3am

ウェブサイト: <http://lovelylic.ivory.ne.jp/3am/>

「その子とはつき合えたんでしょ？ だったらって思わないの？ その、祈吏ちゃんの手わりとかそういうのじゃなくて」

「そんなこと言われたって、あの時の下田さんの向こうには祈吏しか見えなかった」

「……重症だね、知ってるけど」

「春馬と一緒にだ」

どこか無然とした思いを隠せないままそう呟きながら、ぼす、と力無くクツションを殴る。大体なんでこんな話してるんだ、こんな真面目なトーンで。窓の外からは近くの小学校が流しているらしい注意喚起放送が流れていて、あま苦いこんな気分を華麗にぶち壊してくれる。

もうすぐ午後17時になります、外で遊んでいる子たちは必ず二人組以上になっておうちに帰りましょう。まだ子どもと言われた歳の頃は、よく祈吏と二人で家に帰ったことを今更のように僕は思い返す。祈吏と当たり前に手を繋いで歩いていたのは幾つまでだろうか。最後に手を握った時の感触は、生憎思い出せない。

「でもさー、そこまで言われるとやっぱ気になるよね。その、カイの元カノ。あれだっけ、今も時々やりとりしてるんでしょ？」

「……そうだけだ。言ったじゃん、前にも」

「イングリッドリーグとロックが好きでコーヒー淹れるのと鍋焦がすのが得意で、鯨のぬいぐるみと寝てるんだっけ？ だからまあ、そういうのじゃなくて」

如何にも興味深げにこちらをのぞき込むそのまなざしに、やれやれと大げさなため息でも返してやりたくなる。(やらないけど) 多分春馬が聞きたいのは有名人の誰に似てるのかだとか、どんな体つきなのかとか、キスが上手いのかとか、恐らくはそういうことなのだろうと僕は思う。それでも、約1000km離れた場所に残してきた恋人がどんな相手だったのかなんてことをより具体的に伝えたくないのには、こちらにだってそれなりの理由があるのだ。気が乗らないその態度を隠すつもりもないままに、素知らぬ顔で僕は答える。

「じゃあ新情報、鯨の名前はビートルだよ」

「や、だからそういうことじゃなくてね？」

尚もおどけた様子でそう切り出す彼を前に、わざとらしく顔をしかめるようにしながら僕は答える。

「だいたいさ、前にも言ったじゃん、その『元カノ』って言い方、好きじゃないって」  
そもそも、恋人が女の子だったなんていつ言った。

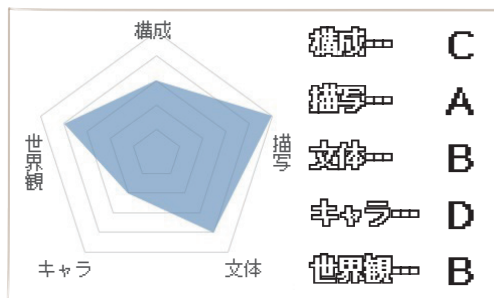


掌編

ファンタジー

## EINE KLEINE

「ことば」と「じぶん」を考える短編集



価格	700円
ブース	D-34
著者	キリチヒロ

Twitter: @mist\_chr

ウェブサイト: <http://hydrablue.flavors.me>

鳥の聴覚世界はいつも自分以外の囀りに溢れている。視覚世界はゲージの中と外で断絶されている。味覚世界はここ一年なんの変化もないと鳥は思う。鳥は毎日ゲージへと投げ入れられる見慣れぬ茎を足の先でなんとなく弄ってみる。隅にはひたひたと艶めくインクの瓶。濃いブルー。鳥が間違っただけで飲み込んで死んでしまわないように、ブルーベリーの味と成分でできたこのインク。鳥は足下から顔を上げた。囀りの洪水の中にはたばたと軽やかな足音が聞こえる。

「おはようエムちゃん、今日も元気だね。あつ、今日はインクを飲んでないんだね偉いよ。お水はこっちだからね、こっちの、透明な方よ」

職員は日本語で鳥に話しかける。鳥は日本語、英語、ドイツ語が理解できる。

しかしこのみつつの言語は鳥の中では一方通行なのだった。日本語のことばが英語に変わることはなく、ドイツ語のことばが日本語に変わることはなかった。ことばとは記号であり音だった。でしかなかった。鳥のなかでは。

この気持ちは、僕だけのものではない  
「ジェミニとほろつき星」

高梨来  
(午前三時の音楽：D-33)

双子の姉への想いを秘めながら、『家族』であり続ける為に自分の感情に蓋をして生きてきた主人公はひよんなきっかけから中学時代に単身イギリスへの短期留学へ旅立ち、自分の揺れる感情を預けさせてくれる恋人に出会うがー。

身近な相手への強すぎる愛情、自身のセクシャリティなどに悩みながら、不器用な男の子が自分の殻を破ろうとする青春小説です。ぬるめですがボーイズラブ。

調子に乗ってキャラと遊び過ぎたので続編と番外編が三冊くらい同時に出ます。めんどくさい男の子の青春の日々を見守っていたけると嬉しいです。

(紹介者：高梨来)

箱庭の外から聞こえる呼び声は  
「夏火」

キリチヒロ  
(nyata/blue：D-34)

シリーズ二作目。

血のつながりと、それ以上に強い魂を結び合う絆で結ばれた幼馴染三人はそれぞれクラスが別れ、新しい出会いと共に少しずつ押し寄せてくる波に攫われるように世界を開いていくことを余儀なくされる。

思春期の息苦しさ、焦燥感、目の前を通り過ぎていく景色のハッとするほどの一瞬の煌めき。押し寄せる感情と、箱庭を旅立って尚、色濃いその影を落としていく『箱庭』を旅立って永遠の存在として生きるかつての少女の姿。色鮮やかで清冽な心の移ろいがいつまでも焼きつくように残ります。

(紹介者：高梨来)

海に浮かぶ箱庭ブラックボックス  
「ミニチュアガーデン・イン・ブルー」

キリチヒロ  
(nyata/blue：D-34)

海辺の片田舎の町に住む少年三人と犬の話。高校1年生。日常に絡まるそれだけの過去。本人の意志の力が及ばないほどの「生まれたときからのつよい繋がり」を書きたかった。

はじめてきちんと作った本であり、興味本位で応募した第二十七回小説すばる新人賞の一次選考も通過してくれた。でもボーイズラブ。

(紹介者：キリチヒロ)





# ライト ベイト ル

小銃が三度動いた。  
赤く、黒く、するどく。弾丸は俺の身体を貫通する。内臓あたりがやられたら  
うか。

しかし、エンドルフィンの作用からか肉体は痛みを訴えない。  
まだやれるな。

瞬間的に判断し、俺は向かってくる弾丸を避けずに、銃弾の射手を両手に抱えた  
銃剣で突いた。黒い防弾服を着た中年男の心臓を一突きすると、裂くように上へと  
刃を振り上げる。噴き出す鮮血が白刃を赤く染めていった。

どうやら、警備兵といえど実戦経験はあまりないようだ。これなら、何人かまと

——「世界革命のシンタックス」(著者…木野誠太郎) 抜粋

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| D-41 「誠」自由工房      | D-53 少女サナトリウム   |
| D-42 Q 出ですか、そうですか | D-54 藍色横町       |
| D-43 Pumpkin Head | D-55 大阪芸術大学文芸学科 |
| D-44 五月雨計画        | D-56 あいうえオーダー . |
| D-45 デシロップ        |                 |
| D-46 放課 ×0.03     |                 |
| D-47 華胥遊記         |                 |
| D-48 夜月書房         |                 |
| D-49 猫舌連盟         |                 |
| D-50 九龍組          |                 |
| D-51 玉造屋バキューン     |                 |
| D-52 大塚マート        |                 |

見本誌コーナー

(ステージ上)

G

01 02 03 04

G

05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

G

15 16

F

20  
19  
18  
17  
16  
15  
14  
13  
12  
11  
10  
09  
08  
07  
06  
05  
04  
03  
02  
01

E

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

D

**56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43**

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

C

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

B

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

A

28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15

E

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

D

**42 41** 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

C

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

B

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

A

14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

出入口

ファンタジー

ライトノベル

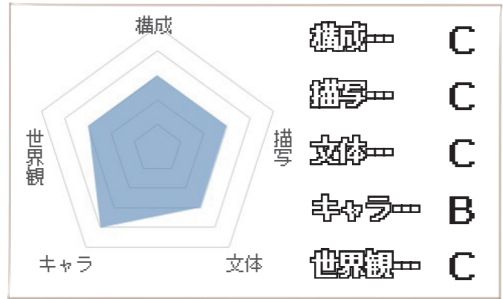
## とっぷおぶざわーるど

三xxx年——それでも『ギネス』は存在した。



とっぷ  
—宇宙(せかい)  
おぶ  
ギネスブッケー  
ざわーるど

©夜月書房



価格	500円
ブース	D-48
著者	綾月 宮司 (夜月書房)

Twitter: @piepiepie111pie

ウェブサイト: <http://yoduki-bookstore79.tumblr.com/>※  
プロローグ

三XXX年の四月一日。  
この物語の主人公である神代新(かみしろ しん)は本日、高校の入学式である。

入学式を無事に終え、午前中を必然ともいえる担任の話聞き、昼過ぎには帰宅の予定だった——しかし、時計の針が午後一時を指しているにも関わらず彼は、とある部室にいた。

椅子に座り長机を挟んで、向かい側には初対面の女子生徒が三人並んで座っている……はずだが、目の前に置かれた山積みの饅頭のせいで視界は遮られていた。視界の右半分は女子半分。左にも女子半分。真ん中に至っては、饅頭しか見えない。

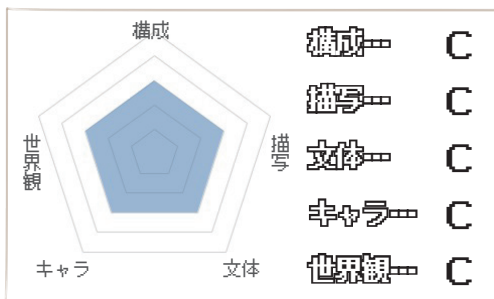
さて、何故こんなことになったのか？

時間は本日、四月一日の朝に遡る。

(続く……)

## 三分間読書

隙間の時間に物語を



価格	500円
ブース	D-48
著者	綾月 宮司 (夜月書房)

ツイッター: @piepiepie111pie

ウェブサイト: <http://yoduki-bookstore79.tumblr.com/>



### 「報」

こんなに美味しいものを食べたのは初めてだ、と俺は思った。目の前にはコース料理における魚のメイン。ソテーされた白身を一口頬張ると、バターの香りが全身を駆け巡って、鼻から抜ける。その前に出て来た前菜もスープも最高だった。前菜はサラダだった。俺からすればサラダなんて葉っぱの盛り合わせぐらいにしか思っていなかったが、その認識は今日変わったと言っても良い。

「次は——」

ウエイトレスが、料理を運び説明をするが全く解らなかつた。俺が解るとしたら肉が牛なのか、豚なのか、鳥なのか、それぐらいである。

ただ、そんな俺でも、こんな素晴らしい料理の前で帽子を被りながら食事をするのは申し訳なく思った。だが、これは仕様みないなものだ。

※ 片田舎にあるログハウスのレストラン。不便などところにあるが、シェフの腕が良いので口コミで評判は広がり、客入りは上々だ。

※ 店内はテーブル席は三つのみ。奥にシェフのいるキッチンがあるが、席からは見えない。予約は必須ではないが、ランチもディナーも大体満席だ。俺も今日は予約して来た。

※ 十数分後、俺は食後のコーヒーを楽しんでいた。これもこだわりを持って淹れられたものだろう。嫌な苦味がなく、香り高い。俺がいつも飲んでいるものとは天地の差だ。それを飲みながら、本日のコースを振り返っていた。

幸福、いや口福だった。

「ちよつと良いかな？」

※ 「はい？」

「素晴らしい料理だった。是非ともシェフに挨拶をしたいんだが」

「コーヒーを飲み終えた俺はウエイトレスを呼びつけ、そう言った。」

「かしこまりました。少々、お待ち下さい」

このようにことに慣れているのだろう。ウエイトレスは丁寧に礼をし、奥のキッチンへと入って行った。反対に言った俺の方は慣れていないので、少し緊張をしている。恥かしい限りだ。

狭い店内だ。シェフはすぐに出て来た。俺も席を立つ。

「どうも、私が——」

シェフが俺の前に立った時だ。さすがに失礼だろう、と思い、俺は帽子を取る。そして——胸ポケットに隠していた拳銃を抜き、躊躇無く引き金を三回引いた。

狭い店内には破裂音の残響。そして、鉛玉によって倒れるシェフ。そんな中、俺は硝煙の香りが先程までのコーヒーの香りを消してしまつたので残念に思っていた。

「最高だったよ、シェフ」

俺は、聞こえない賞賛の言葉を彼に送った。

(続く……)

廃墟に眠る

金色の少女は



時邑 亜希  
Tokimura Aki

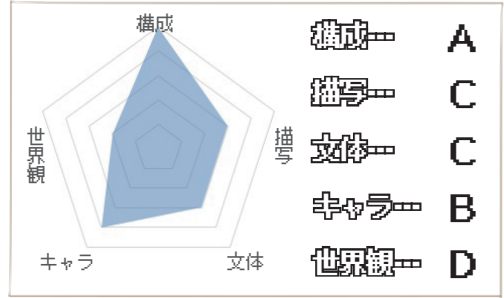
ライトノベル

百合

新伝綺

金色の少女は廃墟に眠る

廃墟を舞台に繰り広げられる百合 × 新伝綺！



価格 900円

ブース D-49

著者 時邑亜希

ツイッター: @aki\_tokimura

ウェブサイト: <http://nekozitarenmei.web.fc2.com/>

青い目が見開かれる。視界に撒かれる爆薬。焦点は信管。容赦なく繰り出された空間の暴力に男が吠えるように耐える。流れる血から黒い不吉が形成され視線の主に迫るが、再度広い視野で一瞥。大きく空間を揺るがしながら爆縮が巻き起こり、黒い不吉をまとめて男の元へ叩き返す。そのまま視線を外さずギリギリと締め上げるように断続的な爆縮を繰り返していく。

「うぐ……っ……もう、すぐだ!!」

唇を咬む。血が滴る。それを黒い刃の文字に滴り落とす。赤く、なぞられる文字列。刃を逆手に構え、べろりと流れる血を舌なめずり。赤い紅を引いたように私の唇が深紅に染まる。

「……っ!!」

声にならないうめき声をあげながら少女が焦点をさらに絞りあげる。巻き起こる空気の爆発。抜け殻のように崩れ落ちる大男。ゴロン、と鈍が床に転がり落ちる。そして、その口から大量の黒い不吉が溢れ出した。

足を力を入れる。腰を落とす。地を蹴る。這うように低く。流れるように速く。滑り込むように黒い不吉に迫り、先兵のように飛来する欠片を一つ、二つと、コマのように体を回転させて回避する。そして本体。不吉の塊。

意識を整える。視界を研ぎ澄ます。アンバーの瞳が透き通る感覚。もっただ。もう一步！

心臓が早鐘を打つ。血液が暴れ出す。頭痛がする。吐気が収まらない。脳が沸騰する。視神経が焼き切れそうな程の情報量。それを視覚ではなく感覚で処理していく。捉えるのは不吉の本質。見つめるのは世界との繋がり。そのものが存在する在り方。どこを削いで、どこを切除して、どこを貫けばソレを切除出来るのかを。

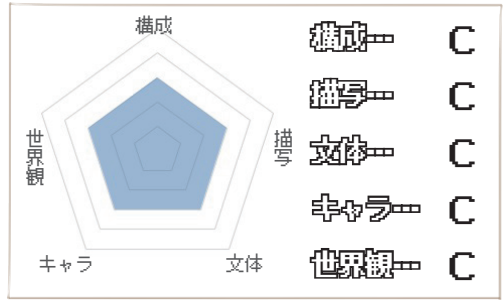
見えたら後は、それを切り取るだけ。  
ざくざくじよきんってね。

ライトノベル

SF

## 世界革命のシンタックス

予測不可能のサイバーアクション、開幕。



価格 1000円

ブース D-53

著者 木野誠太郎

ツイッター：@kinosei

ウェブサイト：http://shoujos.com



小銃が三度動いた。  
赤く、黒く、するどく。弾丸は俺の身体を貫通する。内臓あたりがやられただろうか。

しかし、エンドルフィンの作用からか肉体は痛みを訴えない。  
まだやれるな。

瞬間的に判断し、俺は向かってくる弾丸を避けずに、銃弾の射手を両手に抱えた銃剣で突いた。黒い防弾服を着た中年男の心臓を一突きすると、裂くように上へと刃を振り上げる。噴き出す鮮血が白刃を赤く染めていった。

どうやら、警備兵といえど実戦経験はあまりないようだ。これなら、何人かまとめて現われても、十分に対応できる。

中央省庁特注の防弾服は厄介だが、急襲に慣れていない相手ともなれば間合いを詰めるのは簡単だった。彼らの銃を持つ手が震えているため、まず急所には当たらないのだ。そこを利用して、小さなカーブを描くように突撃すれば、接近して喉首に刃を立てるのはたやすい。

対象を殺害したのを確認すると、俺は人民管理省のさらに深奥へと向かっていく。

そこから数名の警備兵を殲滅し、無機質なコンクリート製の床を駆けると、出迎えるようにして自動開閉のドアが開く。

五十人ほどの人員が作業できる広々とした一室。ここが中央管理室だ。しかし、この大事にもう人は出払っているようで、管理室には誰もおらず、警報音だけがけたたましく空間を埋めている。

「AURAより命のほうが惜しいか。ま、こちらとしてもそのほうが助かる」

誰もいない部屋でそう一人ごちると、さっそく中央管理室から通じる非常階段のセキュリティを銃弾で破壊して、上へ。

AURAのいる六十階まで、階段を使えばあと十分といったところだろうか。すこし身体が痛くなりはじめた。

しかし、あと十分もあれば十分だ。

琵琶湖擬人化×腐女子ミステリー

## 「腐女子探偵びわ子事件録」

時邑亜希  
(猫舌連盟：D49)

滋賀県のとある温泉宿を訪れた  
“びわ子”と“ひ子姉”。そんな二  
人待ち受けたのは、イケメン三  
人+妹という珍妙な客で、

どんな難事件もびわ子の801脳  
にかかれば一発解決！一般人では  
想像もつかないようなぶっとんだ妄  
想回路で真実を見抜く！

「ああ、あれは完璧に受けだね。そ  
れもへタレ受け」

……みぬく？

(紹介者：時邑亜希)

次に楽しみにしている本

## 「世界革命のシンタックス」

木野誠太郎  
(少女サナトリウム：D53)

いつも小説のギリギリのところを攻  
めてくる作者は、今回どんなものを書  
いてくるのか楽しみ。

(紹介者：式巻)

とっても可愛い女の子

## 「METEOR EP」

木野誠太郎  
(少女サナトリウム：D53)

とにかく女の子が可愛い。

外見や仕草の描写が適切な場面で適  
切に書き込まれていて、イメージしや  
すい。

細かく幻想的な世界の中で女の子が  
「動いて」いるのがたまらなく可愛い。  
特に素晴らしいのが一作品目、

「青空さんのメテオ」。青空さんが、す  
ごくかわいい。それが全てだが、唯一  
ではない。ふわふわの青春です。

メテオの代わりに少女が落ちてきそ  
うな夜に。

(紹介者：にゃんしー)

招かれ巻き込まれた運命と、  
己が道を選ぶ意志の物語

## 「君が風を掴むとき」

あつみ伊織  
(藍色横町：D54)

街を繋ぐ商隊、連街衆が今日も今

日とて旅をする。ある日、隊の長で

ある旭は風に滲む不穏の色を見た。

風は新たな風をよび、旭は仲間達と

ともにひとつの運命に巻き込まれて

いく。運命が行き着く先、彼らは何

を見て、何を選ぶのか？

ファンタジー小説です。番外とし

て本作品の世界を彩る歌を三つ、挿

絵を交えて収録した「ともうた綴り」

もあります。

(紹介者：あつみ伊織)





# 児童文学

# 絵本

たった3分 読むだけでわかる！

二兎の追いかた、得かたの基本が身につく！

こんなわたしでも簡単に二兎を得られました！

——「二兎を追い二兎を得る人のための実践的メソッド10」

(著者…未衣子) 抜粋

- B-07 ます @ レインボー
- D-19 ひつじのいえ
- D-20 すみだ はな
- D-21 おおよど漫画制作所
- D-22 さいたま養豚場
- D-23 どんつき A 町
- D-24 ふしぎな隣人たち

G

01 02 03 04

G

05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

G

15 16

F

20  
19  
18  
17  
16  
15  
14  
13  
12  
11  
10  
09  
08  
07  
06  
05  
04  
03  
02  
01

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

E

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

E

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

D

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

D

15 16 17 18 **19 20 21 22 23 24** 25 26 27 28

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

C

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

C

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

B

01 02 03 04 05 06 **07** 08 09 10 11 12 13 14

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

B

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15

A

14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

A

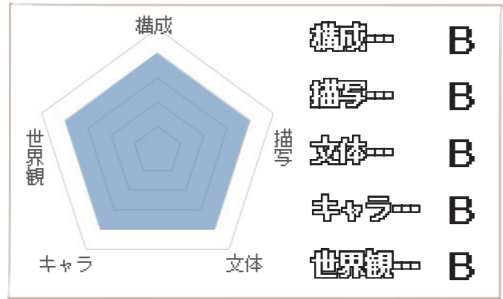
ファンタジー

ライトノベル

合同誌

蒼茫のゼロとイチ、ラストは真剣にやらなきや

合同企画の文学集、四作者の世界を



価格 400円

ブース B-07

著者 狭山恵爾、綾瀬ちかこ、ぼぶちやう他

Twitter: @masu\_rainbow

ウェブサイト:



Twitter 合同企画誌

蒼茫のゼロとイチ

ラストは真剣に

やらなきや



『蒼茫のメモリーズ』

闇の奥、大火が揺れる。真夏の気は焼かれて、乾ききっていた。悲鳴と怒声の合唱が始まって久しい。

『司令部（HQ）より各位。司令部（HQ）より各位。当該目標を速やかに無力化せよ。繰り返し。当該目標を速やかに――』  
簡単に言ってくれる。

『ゼロとイチの世界』

目の前は一面の白。荒れ狂う雪、吹き荒ぶ寒風。体温を容赦なく奪う。先ほどまで小刻みに震えていた手足も、今では全く感覚がない。自分の身体ではないような錯覚。ああ、防寒具がまるで役に立たない。それでも進まないといけない。あの人を、あの人を探さなくては。朦朧とした意識の中、鉛のように重たい両足を動かす。最早、気力と意地だ。

『ラストピッチ』

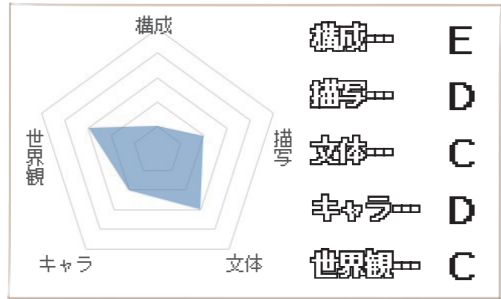
次のサインが出た。捕手の要求は内角だった。低目へのチェンジアップ。鷹見は首を横に振った。大卒三年目の若い捕手は、ちっともこちらの好みを覚えようとしてない。

『真剣にやらなきや帰って来なくて構わない』

足にまとわりつく泥を振り払いもせずさらにぬかるみに勢いよく踏み込む。その一歩が沈む前にさらに先へと反対側の足をのばす。ぬめりを伴う音は、自分の上がった呼吸にかき消されて耳には届かないのに、その音が脳の奥まで染み込んで侵食する。おかしいだろ。

## まうまうEX みーとざくりーちゃー

見える世界が変わっても世界自体は変わらない。



価格	500円
ブース	B-07
著者	早生しあ

Twitter: @Nathan\_yade

ウェブサイト: <http://honyasan.net/mypage/3122>

—— プロローグ ——

声が、聞こえた。

暗月の深夜、天から注ぐ明かりは脆く、足元は冷たい闇に沈んでいる。

朝に向かい露を溜める準備を始めた木々の葉の甘い匂いと、違和感を覚えるような鼻に刺さる臭いが混じり、自分の表情が歪んでしまっていることに気付く。

「ナア、ソナナ命乞イハ昔ヤッタヨ。デモナ、助ケルコト出来ナイ。ますたーデナイカラナ」

その声はまるで意思を持たない音の羅列にしか聞こえない。

耳触りで不快で、その後聞こえる鋭く高い声も、不快でしかない。

「マダ居タノカ？ コレデ、五人目」

明かりは届かない。

それなのに、色を無くしたかのような声の主の髪色だけははっきりと認識出来た。

高い背、その体中にまわりついている刺激のある臭い、そして、いびつな笑いが耳につく。

さっきまでなんの意思も感じ取れなかった音は、五人目という言葉とともに急に色づいた。

「そろそろ、チカラもついてきたんじゃないか？ まあ、アトヒトリくらいか」

ただ、音に感情が込められたからだろうかというんだらうか。

そんなことよりも、自分にとってはただ、今という時間が——不快だった。

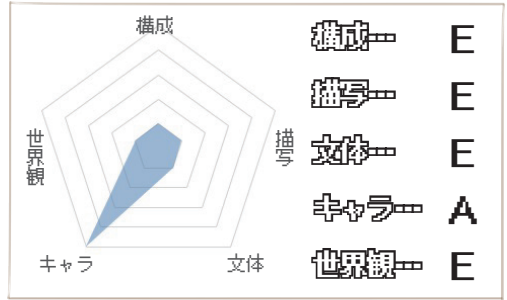
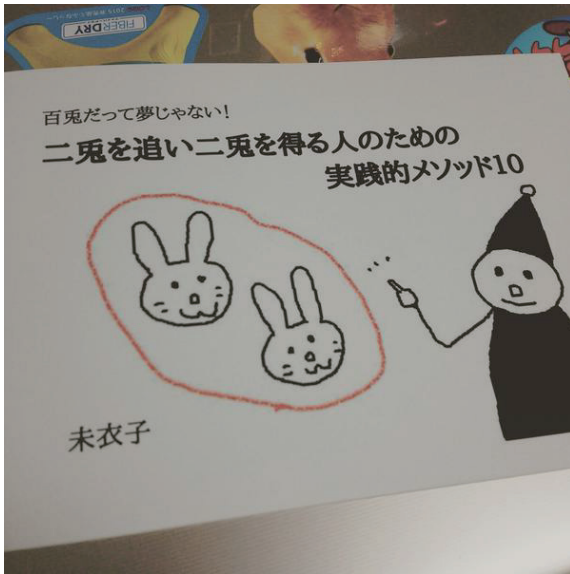
児童文学

大衆小説

実用書

二兎を追い二兎を得る人のための  
実践的メソッド10

百兎だって夢じゃない！



価格	400円
ブース	D-22
著者	未衣子

ツイッター：@315meow

ウェブサイト：<http://mascon33.com/>

たった3分 読むだけでわかる！  
二兎の追いかた、得かたの基本が身につく！  
こんなわたしでも簡単に二兎を得られました！



# ミニステリー

「城ノ内さん」

コンビニ製の昼食をとくに終えた午後一番、仕事を再開した私は、視界の端っこでやる気なさそうに携帯を見ている上司へ声をかけた。

「浅羽さんもう来られますよ。準備したほうがいいんじゃないですか」

「あー、」

上司はちらりと時計に目をやり、

「……そだね」

ため息交じりにそう言って、のろのろと腰を上げる。傍らのロッカーから上着を取り出して袖を通すその表情が、心の内をきれいに物語っていた。

——「城ノ内探偵事務所・Secret」(著者：桂瀬衣緒) 抜粋

B-09 S.Y.S. 文学分室

B-10 SiestaWeb

C-27 雪花伽

C-28 Anonymous Bookstore

見本誌コーナー

(ステージ上)

G

01 02 03 04

G

05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

G

15 16

F

20  
19  
18  
17  
16  
15  
14  
13  
12  
11  
10  
09  
08  
07  
06  
05  
04  
03  
02  
01

E

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

E

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

D

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

D

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

C

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

C

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 **27 28**

B

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 **09 10** 11 12 13 14

B

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

A

28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15

A

14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

出入口



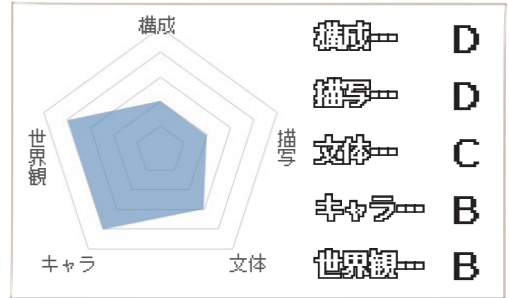
ミステリー

ライトノベル

文学作品考察

## 江戸川悠の考察教室

『羅生門』に込められた真意を江戸川が暴くー



価格	300円
ブース	B-09
著者	堀屋皆人

ツイッター: @minahiton

ウェブサイト: <http://sakaiya.client.jp/>

夏期集中講義は『お得』だ。

たった四日間で単位が取れちゃうんだから。

なるべく楽そうなのがいいな。

予習の必要が無くて、レポートの文字数の少ないヤツ。

そんなわけだから、単位のために適当に選んだこの講義がまさか学内一の不人気講義だなんて知らなかったんだ。

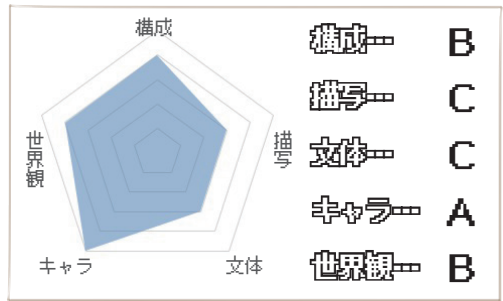
[http://www.azora.gr.jp/cards/000879/files/127\\_15260.html](http://www.azora.gr.jp/cards/000879/files/127_15260.html)

江戸川悠の考察教室

堀屋 皆人

## 城ノ内探偵事務所 -Secret-

—私にだって秘密くらいあるんですよ。



価格 650円

ブース B-10

著者 桂瀬衣緒

Twitter: @katsurase

ウェブサイト: <http://www.siestaweb.net/>

※この本は『城ノ内探偵事務所』シリーズの3巻です。

# Secret

「城ノ内さん」

コンビニ製の昼食をとくに終えた午後一番、仕事を再開した私は、視界の端っこでやる気なさそうに携帯を見ている上司へ声をかけた。

「浅羽さんもう来られますよ。準備したほうがいいんじゃないですか」

「あー、」

上司はちらりと時計に目をやり、

「……そだね」

ため息交じりにそう言っ、のろのろと腰を上げる。傍らのロッカーから上着を取り出して袖を通すその表情が、心の内をきれいに物語っていた。

「……嫌そうですね」

「そりゃあね」

気持ちにはわからなくもない。

机に置かれたため息の原因は、昨日私が完成させ、上司自身が最終チェックをした書類。浅羽夫人を対象とした浮気調査報告書——それに書かれた結果は、潔白（シロ）だった。それだけなら珍しいことではない。浮気を疑ったがそうではなかった。お金は無駄になったし若干のうしろめたさは残るだろうが万々歳じゃないか。堂々と報告すればいいだけの話だ。

それなのに上司が嫌がっているのは——つまり、依頼人は諦めが悪かったのだ。……何回目でしたっけ？」

「五回目」

おそらく、これで終わりにはならないだろう。そんな予感がふたりの脳内を駆け抜けた。



探偵vs事務員、勝つはどっちだ?!

## 『城ノ内探偵事務所』シリーズ

桂瀬 衣緒

(Character: B-10)

これフジテレビの木10枠でドラマ化したら絶対ウケる。脚本・坂元裕二を初めとする『最高の離婚』スタッフ集結させて、【城ノ内】窪田正孝】vs【あかり】高畑充希】。爆売れやで。

こほん、それはさておき。探偵もの、ではありませんが、人死にナシでミステリ苦手層の方にもばっちりです。でもあくまでコンセプトの“探偵もの”からブレないのが素晴らしいです。探偵vs事務員の丁々発止なやり取りが魅力で、ほんのりラブ風味なものも心憎いところ。でも決してクドくないので、男性の方もぜひぜひお手にとってみてください。

最初の巻は探偵業のあれこれを垣間見つつ二人の関係性構築、そして次巻でその関係性が一気に深化。これを読んで床を転げ回らずにいられる人がいたらお目にかかりたい。

(紹介者: 世津路幸)



S ukoshi  
cience

F ushigi  
iction

最初からいなかったかのように嫁がいなくなって一週間、俺、しかし精神が波立つこともなく、いたって平穏な毎日を送っている。それもそのはず、元より俺と嫁の生きる時間は異なっていた。朝と平日の住民であった嫁は、夜明けと共に目を覚まし、コーヒーを淹れ、颯爽と仕事に出かけるか、水曜日であるならば映画館へと繰り出していった。一方、夜と週末の住民であるところの俺、目覚ましが鳴ると同時に自動的に起き上がり、シャワーを浴び、ぬるくなったコーヒーを飲んでから出社、帰宅は終電もしくはタクシー。息を殺し、自分を殺すようにして一週間を生きやり夜更けに帰宅し、呆然と土曜日の朝ないし昼を迎えるのだった。俺、を支配する摩耗した生活において、嫁は色彩なりえず、その嫁が、ある日、忽然といなくなっ

——「大阪彷徨記」(著者…秋山真琴) 抜粋

- B-11 HPJ 製作工房
- C-21 はるこん実行委員会
- C-22 真揺中心
- C-23 ソラギア
- C-24 A NormalLife,,,
- C-25 日本初期 SF 映像顕彰会
- C-26 第四滑走路
- D-03 雲上回廊

見本誌コーナー

(ステージ上)

G

01 02 03 04

G

05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

G

15 16

F

20  
19  
18  
17  
16  
15  
14  
13  
12  
11  
10  
09  
08  
07  
06  
05  
04  
03  
02  
01

E

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

D

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

C

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

B

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

A

28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15

E

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

D

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

C

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

B

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

A

14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

出入口

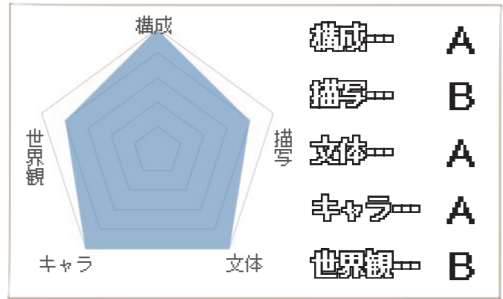
SF

ライトノベル

純愛

## さよならボーイジャー

心は、魂を越えていく。



価格	500円
ブース	C-26
著者	四条瑞貴

ツイッター：@shijo837

ウェブサイト：http://4runway.web.fc2.com/



ピンク色の洪水のような花畑が、ずっと奥の丘の麓まで続いていた。花の名前と宇宙とを掛けたのかもしれない。宇宙開発センターの回りの広大な敷地には、何万何億のコスモスの花が敷き詰められている。

施設の見学が終わると、いつも小さなスニーカーで駆けた。私は昔から走るのが好きだったし、コスモスの甘い香りの中に入ると凄く気持ちが良い。幼い頃は特に、コスモスはとてもしの背の高い植物に見えていた。そのせいもあって、全方向を白とピンクに包まれた迷路は未だに異世界だったように思う。

ミツバチが飛び、鳥が鳴き、空はどこまでも高く続いている。大きく息を吸った。暑くも無く冷たくも無い温度の風がコスモスの花を揺らせ、私の頬をくすぐる。丘の上の発射台まで全力で走ったら、どのくらいで着くだろう。試してみようかな。そんなことを思っているとき、後ろからひっきりなしに私の名前を呼んでいる声が聞こえた。深（しん）だ。

「有羽（ゆう）！ 有羽！」

「何？」

深にしては珍しい慌てた声。急いでコスモスをかき分けて探し出すと、花たちの根元にしゃがみ込んでいる小さな背中が見えた。

「どうしたの？」

転んだのかもしれないと、私はどきりとした。しまった、と思う。ここに誘ったのは私なのに、自分が走り回るのに夢中で、置いてけぼりにしてしまっていた。深は運動が得意でないし、そもそも身体が弱いから、怪我をして何かあったら大変だ。だけど心配して近づいた私に対し、深は脅かすようにぱつと振り向いてこちらに手を出してきた。

反射的に差し出し返した私の手を通り過ぎて、その手は耳の上へと伸ばされる。

「はい」

深の手が左耳に触れた。髪に何か挟まれ、私はそっとそれに触れてみる。花ごと落ちていたのだろうか。コスモスの花が飾られているようだった。

「かわいい」

こちらを見つめて、にこりと笑う。普段から殆ど言わない言葉に私は動揺して、一気に顔が熱くなった。それでも深は何の臆面も無い笑顔のまま、再度ピンクの迷路の中に入り込んでいく。いつもはとろいのに、その時だけはまるで白い兎みたいにすばしっこく花畑を駆け回って行った。

「待ってよもう！」

急いで追いかける。秋空に、私と深の笑い声が高く上がった。

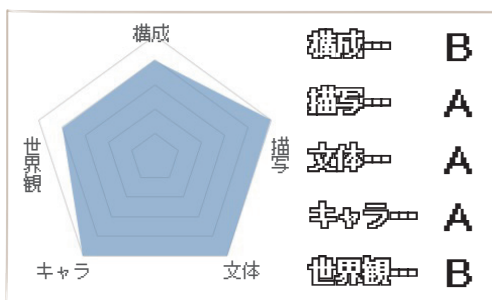
SF

ライトノベル

青春

## Sparrow!! Vol.1

十六歳、夏。スタジアムの空の下。始まりは、ここから



価格 600円

ブース C-26

著者 四条瑞貴

ツイッター: @shijo837

ウェブサイト: <http://4runway.web.fc2.com/>

南からの風には、微かに潮の香りが。大きな卵型に切り取られた七月下旬の空は、宇宙の色をそのまま溶かしたような深い青だった。

階段を上りきって最初に目に入ってきたその色に、雛（ひな）は不意に魅入られた。薄暗くひんやりとした階段とは、光の量も温度も格段に違う。加えて、先ほどまでは遠かった人々の喧騒や楽器の音が、解き放たれたようにけたたましく耳に入った。

太陽はもうすぐ一番高い場所に到達するほどで、短く色の濃い影が足元に身を潜めている。七月の最終日曜日、真夏の真昼のスタジアム。悪あがきのように壁の高い位置に取り付けられた空調が、この熱気に対抗しようと必死に風を送っている。

「――凄い人」

眼下を溢れるように埋め尽くす人の渦に、思わずそう呟いた。

家から被ってきた白い帽子のつばを持ち上げ、ここ四階スタンド席の一番奥から、この広大な会場の隅から隅までを見渡す。色とりどりの広告に囲まれたグラウンドの人工芝は夏らしい濃い色に仕上げられ、反対側の客席に付いた庇が銀色にきらきらと空の青に映える。

揺り鉢状に眼下に広がる客席には、手持無沙汰そうに煙草を吹かす中年の男もいれば、数人で和気あいあいと話している少年グループや家族、パンフレットを読みあっているカップル達もいる。対岸のスタンド席を見渡しても、そこを埋める人々は皆指の先ほどの小ささだ。その光景は、幼いころからピアノの演奏会やコンクールに行き慣れている雛から見ても、目がくらみそうなほどである。

しかしその誰もが高揚し、これから始まることに対する興奮で場内の熱気を更新し立てている。日影にいたおかげで一度は乾いていた汗が、またじつとりと吹き出してきた。今日は髪を上げてきて良かったと、ツイントールにした首の後ろ辺りをハンカチで拭う。



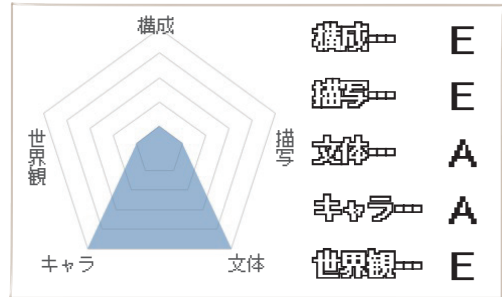
純文学

SF

幻想

## 大阪彷徨記

独り、大阪の地を彷徨する



価格 400円

ブース D-03

著者 秋山真琴

Twitter: @unjyoukairou

ウェブサイト: <http://unjyou.jimdo.com/>

最初からいなかっただかのように嫁がいなくなつて一週間、俺、しかし精神が波立つこともなく、いたつて平穏な毎日を送っている。それもそのはず、元より俺と嫁の生きる時間は異なつていた。朝と平日の住民であつた嫁は、夜明けと共に目を覚まし、コーヒを淹れ、颯爽と仕事に出かけるか、水曜日であるならば映画館へと繰り出していった。一方、夜と週末の住民であるところの俺、目覚ましが鳴ると同時に自動的に起き上がり、シャワーを浴び、ぬるくなったコーヒを飲んでから出社、帰宅は終電もしくはタクシー。息を殺し、自分を殺すようにして一週間を生き延び、気がつけば金曜日の夜、人間性を取り戻すために酒に浸り、やはり普段通り夜更けに帰宅し、呆然と土曜日の朝ないし昼を迎えるのだった。俺、を支配する摩耗した生活において、嫁は色彩なりえず、その嫁が、ある日、忽然といなくなつてしまつたとしても影響などあるわけもなかつたのだ。良い意味でも、悪い意味でも。取えて言うならば、そう、ぬるいコーヒが飲めなくなつたくらいだ。

## 大阪彷徨記

秋山真琴

独り、  
大阪の地を彷徨する

妻がいなくなつてから一週間、男は大阪を訪れる。現実と幻想、現代と過去が入り乱れる中、男は生きることの意味を自らに問いかける。

時を経て、彼女たちの世界は変容する。  
より明確に、より残酷に。

## 『樂園の子供たち』シリーズ

森村 直也

(上) 製作工房：B-11

閉ざされた島で邂逅したふたりの  
少女、フカミと美空。

島で起こる謎めいた出来事を彼女  
たちの視点から追いかける形式で綴  
られ、現在第三巻まで頒布中です。

島の戒律である掟、神の使途とさ  
れる“ホシン”、瓜二つのフカミと  
美空——散りばめられた数々の謎は、  
彼女たちが歳を経るほどに徐々に頭  
わになっていき、見え隠れするその  
事実気付くと、戦慄せざるを得ま  
せん。まだ全貌が解明されていない  
だけに、一層昏い想像をおおります。

立ちほだかる現実には、彼女たちは  
どう立ち向かうのか——あるいはそ  
れすらさせてもらえないのか。続き  
を心待ちにしています。緻密な伏線  
と構成で描かれる、近未来SF長編  
です。ぜひリアルタイムで体感して  
ください。…いやこれ無料配布って  
おかしいでしょ…!!

(紹介者：世津路幸)

# そのほかの

# 小説

私はあの国で起こったことを、どういう形で書き始めていいか分からないのです。あの美しい飛鳥国のことを、私たちが愛した国のことを、どのように書けば伝わるのか分からないのです。

稀に食べるピワマスの刺身が絶品だったことでしょうか、密会で飲む水果茶は苦くて大人の味がしたことでしょうか、禁じられた性行為のことでしょうか、大化の改新に起源を持つ国の歴史でしょうか、鳥言語を用いた「不動」の術でしょうか、年に一度の祇園祭で外界に下りられるのを楽しみにしていたことでしょうか、神とされ奔放に生きた女性たちのことでしょうか、僧正と初めて夜伽を行った後の、肛門の焼け付くような痛みのことでしょうか、「ともだち」でしょうか。

——「ともだちの国」(著者…にゃんしー) 抜粋

## ホラー・怪奇

B-32 眠る犬小屋

## 短編・掌編・ショートショート

C-56 兎角毒苺團

## 恋愛

D-14 招福来猫

## そのほか

D-02 文学フリマ大阪非公式ガイド

ほか、青春／歴史／百合／アンソロジー／SNSなど50サークル以上あります。

見本誌コーナー  
(ステージ上)

G			
01	02	03	04

G									
05	06	07	08	09	10	11	12	13	14

G	
15	16

F

20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
09
08
07
06
05
04
03
02
01

56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43
E													
01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14

42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
E													
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28

56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43
D													
01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14
そのほか							恋愛			青春			歴史

百合													
42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
D													
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28

短編・掌編・ショートショート													
56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43
C													
01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14

42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
C													
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28

56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43
B													
01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14

海外文学 S N S													
アンソロジー							ホラー・怪奇						
42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
B													
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28

F

28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
A													

14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01
A													



# ファンタステイック

# ワーキング

柏木むし子（文学フリマ大阪非公式ガイド：D-02）



## ファンタジー

あらすじ

世界を股に掛けたアルバイターが経験した不思議なを語る、ちよつとシユールでちよつと幻想な連作短編。

- ・針の付いていない釣り竿を垂らして待つものとは  
——「蠟紙の誘惑」
- ・その巨大な木の葉は螺旋階段のような形をしていて  
——「登る阿呆」
- ・葉を口にする、愛らしい猫の姿が脳裏に浮かんだ  
——「情報薬」
- ・彼女は荒野で光を拾い、僕はそれに倣う  
——「耀ける亡骸」
- ・この街の住人たちは気軽に頭を取り替える  
——「頭を抱えた話」

の五篇とそれらに付随するエピソードを収録。

（過去のペーパーからの再録を含みます）

# 発想力の宝宝箱

(紹介者：咲祈)

拝読して、即、発想力に脱帽しました。天才ってこういうひとのことをいうのかな……。

おかつぱ頭のイケメン記者さんが綴る、さまざまな短期の仕事のレポート。

この短期の仕事が、どれも、とてもおもしろい。まさに発想力の宝宝箱！

文章も読みやすく、すすい読み進めることができました。装丁も凝らされていて、本の中に本（ノート）がある仕様です。

この発想もすごい。

まさに「ひとに薦めたくなる御本」ですね。

まちがいなく「おもしろい本」の一冊だと思います。

# あくだま

壬生キヨム（文学フリマ大阪非公式ガイド：D-02）



BL

あらすじ

「あくだま」とは、プロレスなどの「悪役キャラ」の「悪玉」のことです。

「あくだま」役の人間と、「ぜんだま」役のきつねの妖怪が戦ったり恋愛したりする物語です。

もふもふB」。濡れ場もあるよ。(紹介者：相沢ナナコ)

「あくだま」は、B」小説です。男の子が男の子に恋する話。

濡れ場もあるし、横恋慕とか嫉妬とか、そういう気持ちもあるけれど、このお話を読んで感じるのには、同性愛や、性というもののタブー感がないなあということ。もちろん、良い意味で。

種を撒いたら草が生えてきたねえ、くらいの感覚で、同性を好きになることや性的なことが描かれていて、するする読めます。

しかもこのお話には、そういったB」要素以外にも注目すべきことがいっぱい、するする読めるのですが落ちていて考えると気になることがいっぱいあります。

受けの名前が「ペペロンチーノ」はどうなのか、とか。狐が人に化けているのは良いとして、住民票や戸籍はどうなっているのか、とか。なぜB」なのに妖怪が地下闘技場で戦っているのか、とか。うつくしい顔ってどんな顔なんだ、とか。

紹介者としては、この「あくだま」は、そういう色々なことを唯々諾々と受け入れて最後まで読むのがおすすです。だって、面白いから。他の理由があるかね？ 否、いらないだろう。

(反語) そういう物語を「エンターテインメント」というので、残部僅少との情報も作者の壬生キヨム氏より出ているので、多少なりとも気になっている方は迷わずご購入を。

尚、キャラクターグッズとして「ペペロンチーノ峯田の乳首ガードシール」も完成したとのこと。

これは、受であるペペロンチーノ峯田さんがプロレスマスクをして闘技場で戦うときに乳首に星形のシールを貼っていることに由来します。

それもどうなの、かぶれないの、汗で剥がれないの、と気になり始めると気になってしまうのですが、受け入れていきましよう。それがキヨムワールドです。

個人的には浮葉さんが好きです。報われない感じがして。



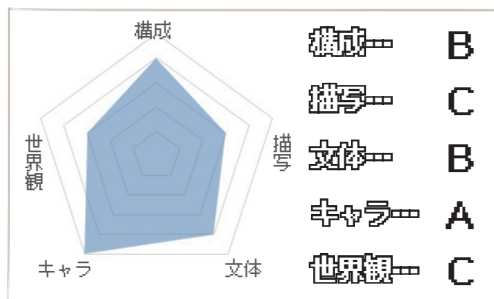


学園

ホラー

後輩書記とセンパイ会計、不亂の刀剣に挑む

妖怪 VS 刀剣！ 妖怪退治の刀剣を巡る青春冒険小説集



価格	未定
ブース	B-32
著者	青砥十

ツイッター：@sleepdog

ウェブサイト：http://fumichann.web.fc2.com

開架中学一年、生徒会所属、有能なる書記のふみちゃんは、時代が違えば、神託を受けて神聖な物体の内なる声を解釈して伝えられる人——審神者（さいわ）と言わらしい——にだってなれただろう。ふみちゃんは小学生時代、家の神社で巫女のお手伝いをしていて、各地からお清めのために届いた刀剣に触れただけで、どんな由緒があるか、誰が作ったかなどを言い当てることのできるほどの上級者だったらしい。

そして、そのふみちゃんから、はにわ……じゃなかった、さになわ。どんな漢字を書くのかを図書館で教わっている一年先輩の生徒会所属、平凡なる会計の僕は、およそ吊り合わないほどの神託知らずで、数学が得意な理屈屋で、物体の内なる声が聞こえると云えば、昔「おでこの眼鏡でデコデコデコリン」というテレビ番組があったと親から聞いたことがあり、つまりそれが進化すると次世代の眼鏡型コンピュータ「ウェアラブル」になるわけで、いつか手に入れたいと思っているところだった。

僕はふみちゃんが審神者だと説明したが、実際にその場面を目にしたわけではない。どうもそれが夏休みに栃木県に旅行した時に起きたらしいが、僕はそこにいなかった。なので、ここからは生徒会長の三年生、屋城世界（やしろ・せかい）さんが語ることになる。

世界さんはすごい名前だが、性別は男だ。陸上部のエースで、爽やかな短髪で一年中日焼けしている健康優良児で、走り幅跳びで県大会に出たほどの実力者だ。陸上は中学で始めたらしく、小学校ではサッカーや武道をやっていたらしい。大きな家に住んでいて、ちょっとした武道場もあるそうだ。

というわけで、僕は世界さんを紹介して、次の話まではしばしお別れである。寂しくなんかない。

全然寂しくなんかない。

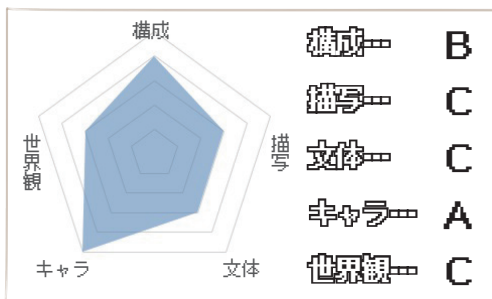
この眼鏡がそんな内なる声を発するわけがない。

恋愛

ライトノベル

## 僕のシスター Novels

男娼と修道女。切なく甘美な、初恋の物語。



価格 500円

ブース D-14

著者 kiyonya (招福来猫)

ツイッター: @kiyonya3

ウェブサイト: <http://kiyonya.xii.jp/>

「おねえさん、ぼくと遊ばない……？ 損はさせないよ」  
今日もレヴィは客引きにいそしんでいた。

独房のような石造りの部屋から、通りの人ごみに向かって、青白い手を伸ばす。ガラガラと音を立て、馬車が通る。一人の女が足を止め、手に持った煙草の煙をレヴィに吐きかけた。

「めずらしい銀色の髪だね……。あんた、名前は？」

「レヴィだよ」

ひらひらした白いシャツに黒いズボンを着たレヴィは、自分の魅力を最大限に生かすべく、青い瞳を細めてにっこりと微笑む。

部屋と通りの間には、鉄格子がはめ込まれている。

動物園の檻にも見えるそのような部屋は通り沿いに数個ほど続き、客が好みの夜の相手を選べるようになっていた。

十九世紀初頭のヨーロッパ、とある都市。この売春宿は下町の歓楽街に存在していた。

レヴィがここに連れてこられたのは半年前だ。客をたくさん取って金を稼ぐと、いつかこの宿から解放されると聞いてから、客引きをするのは日常になった。

「おねえさん、ここははじめてなの？」

客と話していると、レヴィの視界にはここには似つかわしくない服装の女が映った。青い頭巾をかぶり、胸にロザリオを架けた若い尼僧だ。

煙草を吸っていた女は尼僧を見ると、慌てて行ってしまった。

「せっかとお客になりそうだったのに……」

レヴィは尼僧を恨めしく思った。

すると、レヴィの視線に気付いた尼僧が立ち止まり、鉄格子につかまってレヴィをじっと見つめた。

珍しい銀髪のせいで、じろじろ見られるのは慣れている。レヴィはため息をついて、尼僧を追い払おうとした。

「さっき客が逃げちゃったんだよね。……きみ、尼さんだろ？こんなところにいると売り飛ばされちゃうよ」

その時、尼僧が口を開いた。

「……あなた、二年前ヴァンシルの森で狩りしていませんか？」

「え、狩り？ しよっちゅうしてたけど……」

「私はあなたを知っています。……あなたは命の恩人です！」



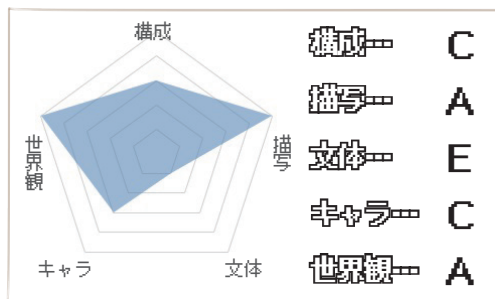
ファンタジー

大衆小説

官能

## ともだちの国

透明な国、汚れる。



価格 600円

ブース D-02

著者 にゃんしー

Twitter: @slymelogue

ウェブサイト: <http://necotoco.com/nyanc/>

私はあの国で起こったことを、どういう形で書き始めていいか分からないのです。あの美しい飛鳥国のことを、私たちが愛した国のことを、どのように書けば伝わるのか分からないのです。

稀に食べるピワマスの刺身が絶品だったことでしょうか、密会で飲む水果茶は苦くて大人の味がしたことでしょうか、禁じられた性行為のことでしょうか、大化の改新に起源を持つ国の歴史でしょうか、鳥言語を用いた「不動」の術でしょうか、年に一度の祇園祭で外界に下りられるのを楽しみにしていたことでしょうか、神とされ奔放に生きた女性たちのことでしょうか、僧正と初めて夜伽を行った後の、肛門の焼け付くような痛みのことでしょうか、「ともだち」でしょうか。私があああの国で夢を見ることが出来なかったように、「事実」だけを書きたい、「本当に起こったこと」だけを書きたい、と思っても、それは本当に難しい。私は物心ついた頃から、このように「らしくない」喋り方でした。それは私が稚児として生まれつき、自分を装っていたようにも思うのです。

何処かに行きたい、と思ったことはありませんか。此処ではない何処かに美しい場所がきつとあって、そこに行きたい、と思ったことのある人に、私はこの小説を読んで欲しい。そういう人に、あの国の話をしたい。かつて存在した美しい国の、誰もが自分を愛することが出来た理想郷の、本当の話をしたい。何故ならきつとあなたは、私とも、私が大好きな女性とも、似ているから。同じように、悲しさや寂しさの化粧に気持ちを隠しているから。

それが、私が彼女と新しい国を作るに先立って、果たすべき責任だと考えています。

センパイって！言われたい！

「後輩書記とセンパイ会計、不朽の追憶に挑む」

青砥十

(眠る犬小屋：B-32)

ふしぎなものが見えてしまう生徒  
会書記の「ふみちゃん」と、センパ  
イ「数井くん」とゆかいな仲間たち  
が織りなすものがたり。

「後輩書記シリーズ」として何冊

も発行されているのですが、私のお  
すすめは、枕を持ったふみちゃんと  
青い表紙が目印のこちら。

私の推しメン「主将」屋城世界き  
ゆんが主人公の作品と、幼稚園児時  
代のふみちゃんが主人公の作品など  
が入っていて萌え度が高いのがポイ  
ント。

(紹介者：壬生キヨム)

毒・ドク・どく

「トキシン」

兎角毒母團

(兎角毒母團：C-56)

タイトルにちなみ、毒をテーマにし  
た短編を集めたアンソロジー。ピック  
リするほど爽やかな制服男子の青春モ  
ノから昼下り顔負けのドロドロ因縁劇  
場まで幅広く取り扱ったバラエティー  
豊富な品揃え。

(紹介者：伊織)

DSな王子に愛される人魚の王子さま

「人魚姫の末裔」

Kiyoma

(招福来猫：D-14)

王子さまモノのボーイズラブ小説。

一人は人間の国の王子様で、もう一人  
は人魚の国の王子様。二人の出会いか  
ら数々の苦難を乗り越えて真実の愛に  
たどり着くまでが描かれたがつつり長  
編小説。

人間の国の王子様のキラキラオーラ  
と、人魚の国の王子様のツンデレがた  
まりません。特にシヨタコンの人にお  
すすめです<sup>(-w-)</sup>

(下読みをさせていただきました！)

(紹介者：壬生キヨム)

とことんかわいい！

「あくだま」

壬生キヨム

(文学フリマ大阪非公式ガイド：D-02)

妖怪と人間の青年の悶絶必死のBL。  
とにかくかわいい！とにかくきゅん  
きゅん。だれどかわいいだけじゃなく、  
ときどき妖怪世界のぞっとするような  
世界も垣間見られて、ぐいぐいひきこ  
まれてしまいます。誰彼かまわず布教  
したい一冊。

(紹介者：孤伏澤つたぬ)

ねこがたくさん、大冒険！

## 「ナンバーキヤット」

相沢ナナコ

(文学フリマ大阪非公式ガイド…D00)

ねこはかしこい！

ねこはかわいい！

ねこが集って力を合わせれば、みんなおなかいっぱいになれるおさかなが捕まえられるにゃ！

にゃんしーさんの挿絵もとってもかわいくて、みんなまとめてぎゅっとしたくなる圧倒的なかわいらしさに嫉妬です<sup>(笑)</sup>

(紹介者：壬生キヨム)

「しっぽに触りたいな」「だめです！」

## 「あくだま」

壬生キヨム

(文学フリマ大阪非公式ガイド…D00)

秘密の地下闘技場で夜な夜な拳を交わす、きつねの妖怪(攻)「浜麦」と人間の青年(受)「ペペロンチーノ峯田」(↑名前)のボーイズラブ小説。

浜麦は妖怪ですが、ペペより年下で敬語攻め。

ボーイズラブの伝統・受がオークシヨンにかけられたり、神様の生贄こと『妻』に選ばれたりして、攻がそれを助けに行ったりします。

(紹介者：壬生キヨム)

心のジャンクフード

## 「地獄に落ちる為の26のメソッド!」

式杏

(文学フリマ大阪非公式ガイド…D00)

紹介なんかより、とにかく読んでほしい一冊！そして、うっかりポテチを一気食いしてしまうように、一気読みしてほしい。

中毒性に注意だ。

(紹介者：相沢ナナコ)

もふもふ

## 「あくだま」

壬生キヨム

(文学フリマ大阪非公式ガイド…D00)

オークシヨンにかけられたり生贄にされたり大変ですがもふもふは正義。ふさふさした君の大切な『……』！

(紹介者：伊織)

ハイブリッドポエム！

「地獄に落ちる為の26のメソッド！」

(文学フリマ大阪非公式ガイド：D02)

式杏

詩？ ポエム？ そんなの知らないけど、面白いと思う言葉だけを詰め込んだハートフルでデストロイな一冊。

(紹介者：式杏)

ハイブリッドポエム

「地獄に落ちる為の26のメソッド！」

(文学フリマ大阪非公式ガイド：D10)

式杏

詩集で爆笑したのは初めてです。当然ながら一気読みで、残りページ数を気にしながら、ああもう終わってしまふ…！ と悲しみながら読みました。

(紹介者：赤木杏)

# 詩歌人

## 『イヴァン』

根菜のスープひと匙のみほせる石碑の神の生まれしころ

ふらここの軋みだらうか違ひますあなたか軋み死んでゆくのだ

けだし神ありとてそれは眼ばかりの腐したキーウイ能はざるもの

——「デミウルゴスと光暈」(著者…かかり真魚) 抜粋

### 詩歌 | 俳句・短歌・川柳

- E-01 104
- E-02 fulidom
- E-03 京大短歌
- E-04 BON\*Li\_Na
- E-05 雲庵
- E-06 立命館大学短歌会
- E-07 かんざし
- E-08 うたつかい
- E-09 うたらば
- E-11 BL 俳句合同誌「庫内灯」編集部
- E-15 赤茶の星でシャムネコを飼う
- E-16 盲目羊とサクラジマ
- E-47 cahier
- E-48 川柳カード
- E-49 大阪大学短歌会
- E-50 短歌同人誌「率」
- E-51 ito
- E-52 現実アラカルト
- E-53 短歌同人誌「一角」
- E-54 神戸大学短歌会
- E-55 めためたドロップス
- E-56 楓の花

### 詩歌 | 現代詩・散文詩

- D-29 花森ゆきめ
- E-17 停滞\_閉塞\_衰微
- E-18 さーかす
- E-19 とぎあめようこ
- E-20 ちょびっと詩人
- E-21 柵野初希
- E-22 Juste Minuit
- E-23 雨宿り。
- E-24 Cult Trash
- E-25 compostela
- E-26 このはつづり
- E-27 夜行日和
- E-28 創作工房 群青

### 詩歌 | イラスト・写真

- C-51 ふおとばしょ (photo+ ことば)
- E-10 夜間飛行惑星
- E-12 玉ねぎ頭のネコ娘。
- E-13 37+c
- E-14 Trigger
- E-43 あめふりロンド
- E-44 お里湯
- E-45 碧蹄館 feat. 月待者

### 詩歌 | 朗読・歌唱

- E-46 Girls on a Picture

### 詩歌 | その他

- G-01 小野進一

見本誌コーナー

(ステージ上)

G

01 02 03 04

G

05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

G

15 16

俳句・短歌・川柳

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

E

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

俳句・短歌・川柳

F

20  
19  
18  
17  
16  
15  
14  
13  
12  
11  
10  
09  
08  
07  
06  
05  
04  
03  
02  
01

F

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

D

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

C

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

B

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15

A

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

E

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

現代詩・散文詩

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

D

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

C

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

B

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

A

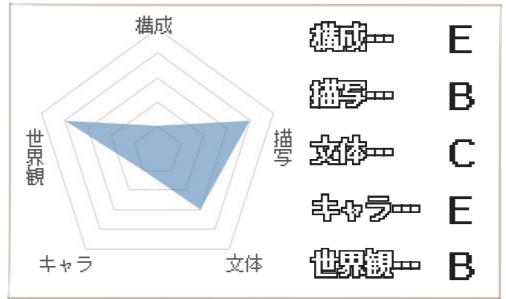




詩歌

## 結晶

あの日の言葉の詰め合わせ。



価格 300円

ブース E-22

著者 今坂あわい

Twitter: @gintictac

ウェブサイト:

君よ 一体何を背負っているのだ  
そんなものは此処へ棄ててしまえ  
そして飛べ  
風の重力で  
舞え  
波の温度で  
強く しなやかに  
駆ける  
この世界から  
今

「プラスチック・ウイング」

# 結晶

今坂あわい

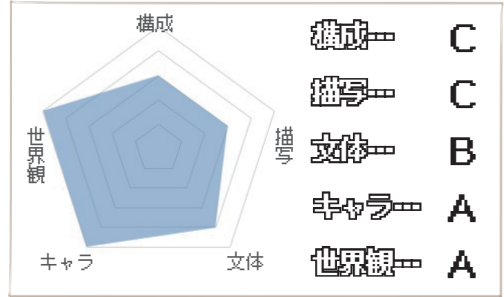
詩歌

児童文学

## 菟 短歌会誌

愛知県津島市、愛西市、愛媛県松山の作家作品集

書影はまだありません



価格	300円～
ブース	E-04
著者	相原利沙、梵悠玄、いがわなおこ他

Twitter: sakana0511

ウェブサイト: <http://gutentag.at.webry.info/>

いい汗がかける予感にウエストをキュッと絞ったスーツ選ばん

ほとばしる汗は七色ひたすらの時を讀えて人に輝く

胸元にふくよかな汗にじませてリサ夏書庫を潜りて游(およ)ぐ

初恋の手汗気にする帰り道15cmの距離遠すぎて

ムスカシイ従兄とはさむ卓袱台(ちゃぶだい)にラムネの瓶が汗かいており

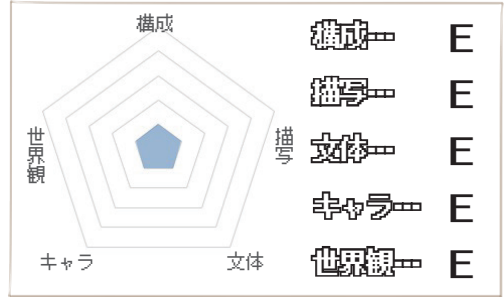
BL

詩歌

## BL 俳句合同誌庫内灯

BL 俳句誌。美味しい萌えをあなたに。

書影はまだありません



価格 1000円

ブース E-11

著者 佐々木紺ほか、30名

Twitter: @blhaiku1

ウェブサイト:

BL 俳句 + 鑑賞文、

BL 俳句ワンドロ特集イラスト、

小説、

関悦史 × 久留島元対談、

金原まさ子 × 佐々木往復書簡などなど、

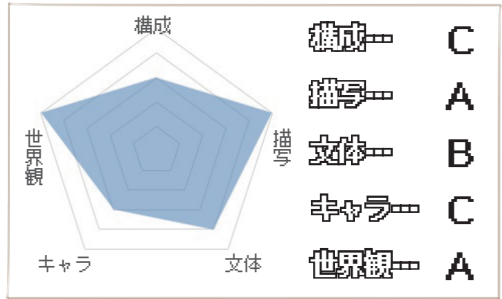
萌えを精一杯詰め込んだ本になる予定です。

BL や俳句に馴染みのある方もない方も、

ぜひお手にとってご覧ください。

## デミウルゴスと光暈

さあ、私はすべてに火をつけよう——炯眼と敬虔の短歌



価格 200円

ブース E-16

著者 かがり真魚

Twitter: @kakari01

ウェブサイト:

### 『放火』

知っている舞踏はきみに教はつて祈りのごとき放火をしゃやう  
あふれまたあふれまた掻き抱くものさむくはないと云つたはずだね  
夜はきみ、紺極まれるくらがりに哀しみいろの向日葵燃えよ

### 『Юродливый』

しらじらと迎える夜明け磔刑のひとの髪にも微雨は降りたる  
微雨濡れの素肌はあはくひかりおり人であれともかなしやイエス  
屈辱の杯に満ちたる茱萸の実を含める口の清さのことも

### 『イヴァン』

根菜のスープひと匙のみほせる石碑の神の孕まれしころ  
ふらここの軋みだらうか違ひますあなたを軋み死んでゆくのだ  
けだし神ありとてそれは眼ばかりの腐したキーウイ能はざるもの



# 甘受の才能

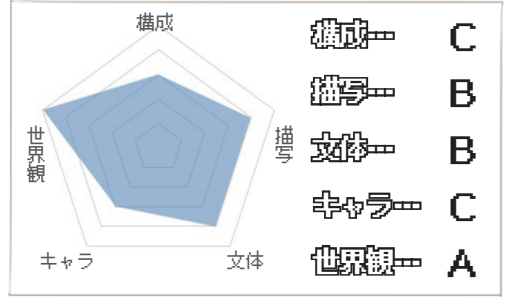


詩歌

純文学

## 甘受の才能

私は、踊ることの出来る神だけを信じる。



価格 300円

ブース E-16

著者 かがり真魚

Twitter: @kakari01

ウェブサイト:

(短歌「お喋りな冷蔵庫」他)

手首より痩せるをんなとなりて待つ神のせなが燃えるゆふぐれ  
プラズマを帯びたる葱の花白し生まれたひとはみんな死ぬのね  
神を模しビスキュイを焼くすきとほる蜂蜜まぶしのちには砕く  
菌に染みるきみの脆さを思いだすうすむらさきのあぢさみ視れば  
喋るのをやめない冷蔵庫と心中するだろ君はさみしいんだから

(小説「薔薇窓」)

嗚呼、待っている。

私は圧倒的なものが到来して私の身体からすべてを浚ってくれる日が来るのを待っている。

私の守っているつまらない枠組みを犯して引き摺りだして粉々に砕いて跡形も残らずに壊してくれるものを、ずっと待っている。

ひとめ見た瞬間もう好きだった

### 「沈黙のために」

正井  
〔B〕俳句合同誌「庫内灯」編集部：F-11(1)

あちこち、目星はつけて、色々と  
楽しみにしているのですが…。

百合詞華集「きみとダンスを」で、  
すごく素敵な関西百合ストーリー  
を書かれていた正井さんの個人誌

「沈黙のために」が、こちら〔B〕の  
ブースに委託されると聞きつけ、  
跳ねるくらい楽しみにしています。  
絶対、恋する、予感…！

豪華メンバー参加の「庫内灯」も  
マストバイだなと思っています。俳  
句のご本らしいですね。知っている  
お名前から、少しずつ新しい趣向の  
扉が開いていくので、わくわくして  
います。  
  
(紹介者：あずみ)

今度は俳句！

### 「庫内灯」

〔B〕俳句合同誌「庫内灯」編集部  
〔B〕俳句合同誌「庫内灯」編集部：F-11(1)

B L 短歌の次はB L 俳句！ 17音  
という限りある音の区切りの中でどん  
な情景が圧縮・解凍されて目の前に広  
げられるのか期待しております。

(紹介者：高梨丞)

まちどおしい

### 「庫内灯」

〔B〕俳句合同誌「庫内灯」編集部  
〔B〕俳句合同誌「庫内灯」編集部：F-11(1)

B L 俳句合同誌。  
B L 俳句や評論・解凍小説などが収  
録されているという噂です。

17音という枠に顕現するB L 世界  
を楽しみにしております。  
  
(紹介者：孤伏澤つたぬ)

打ちひしがれて帰ってこられない

「いつくしみと言う名の猫を飼いたい」

掛 真魚  
〔盲目羊とサクラジマ〕：E-10(6)

シンプルで美しい装幀に、鋭利な刃  
物のような短歌が収録されています。

「きみがもし人になるなら背に揃う鱗  
を剥がす役をやらせて」

作者の血の凝ったナイフで切り刻ま  
れて血まみれになる、恐ろしいほど透  
徹した世界。  
  
(紹介者：孤伏澤つたぬ)

善き葡萄のような甘さと苦さ

## 「甘受の才能」

かり真魚

(目録とサクラシマ：E-16)

短歌、俳句、散文の入った作品集。  
短歌や俳句は日本で生まれた短詩系だが、こちらの作品集にはバタイユ、ニーチェ、ビスキュイ、ガラリヤなど、ヨーロッパで生まれた人物、聖書のことばがたくさん使われている。読んでみると、ヨーロッパの荘厳な教会にいるような気になってくる。

言葉を「吐き出」さずにはいられないという体験がある方に読んでいただきたい一冊です。

ハルシオンに似た石鹼を使ふ夜。  
後ろから本を読む十代だった。

(紹介者：壬生キヨム)

フレッシュさと繊細さ

## 「神大短歌 vol.1」

神戸大学短歌会

(神戸大学短歌会：E-54)

わたし今SNSにハマってて  
初投稿なの聞いて「ママなう」  
→その気持ちあるあるー!!

(紹介者：コットン (ジンジンするZINEの編集人))





# そのほかの

# 書籍

(投稿論文)

スピノザ主義の時代に開拓する聖性の哲学

【はじめに】

この試論は野蛮な思考の産物である。私にはそうする他に仕方がなかった。この時代に逆らって、新たな哲学を作ろうとしたからだ。そのために、私は沈静し、内観し、分析し、そして理性を用いた。本稿において、私はどの段階においても十分に注意深くするよう心がけたつもりだ。それでもこの試論が未だに野蛮に見えるのなら、読者は—どうか時代に引き戻さないやり方で—この試論を叩き直してやってほしい。

—『日本墮落学会研究年報』Vol.2 (著者・日本墮落学会) 抜粋

## 評論 | サブカルチャー

E-33 普通な人の会

## ノンフィクション | エッセイ・随筆

F-14 マゾヒスティック・リリィ・ワークス

F-19 zine 部

F-20 ジンジンする ZINE

## ノンフィクション | その他

G-03 城東ぱらどっくす

ほか、評論／ノンフィクションが30サークル以上あります。

見本誌コーナー

(ステージ上)

G

01 02 03 04

G

05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

評論

ノンフィクション

G

15 16

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

E

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

D

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

C

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

B

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15

A

評論

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

E

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

D

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

C

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

B

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

A

F

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

09

08

07

06

05

04

03

02

01

ノンフィクション

F

出入口

# 日本墮落学会研究年報

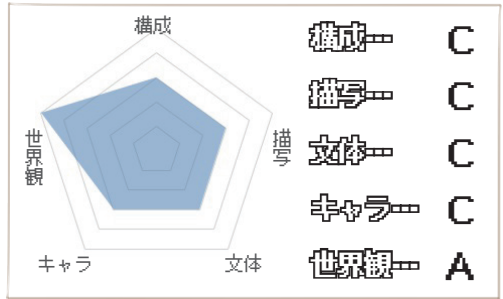
Bulletin of Japanese Society for Corruptology Vol.2



巻頭言…P1  
 会則…P2  
 歴史を書くということ (逢川ボテヨムギン) …P4  
 続・「墮落ごっこ」(コルボーズ難民) …P9  
 墮落の肖像 (ピー缶太郎) …P11  
 スピノザ主義の時代に開拓する聖性の哲学 (クトゥガア星人) …P12  
 現代日本における民主主義の墮落 (ニューティール岡崎) …P26  
 墮落とクリエイティビティ (美玖・マヤコフスキー) …P32  
 墮落学大全 (1) (しぶさわしーん) …P34  
 会長退任の辞 (小金井正道) …P48 編集後記・奥付…P50

## 『日本墮落学会研究年報』 Vol.2

墮落なう。



価格	500円
ブース	E-33
著者	日本墮落学会

ツイッター: @hnhnk\_op  
 ウェブサイト:

(投稿論文)  
 スピノザ主義の時代に開拓する聖性の哲学

【はじめに】

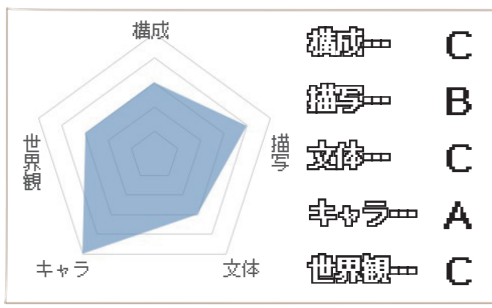
この試論は野蛮な思考の産物である。私にはそうする他に仕方なかった。この時代に逆らって、新たな哲学を作ろうとしたからだ。そのために、私は沈静し、内観し、分析し、そして理性を用いた。本稿において、私はどの段階においても十分に注意深くするよう心がけたつもりだ。それでもこの試論が未だに野蛮に見えるのならば、読者は「どうか時代に引き戻さないやり方で」この試論を叩き直してやってほしい。

この試論が抗った時代とは、一切の神秘が存在しない時代のことである。今日においても、誰もが人間は未だに無知であると叫んでいる。確かにその通りだろう。我々はまだ、自分たちの身体について十分には知らないし、宇宙のこれらについては、なおさらのことである。にもかかわらず、神秘は既に失われているのだ。何故だろうか。

神秘の殺害者がいるのだ。その名をバールーフ・デ・スピノザ (Baruch De Spinoza 1632-1677) といい、誤解を恐れずに言えば、「スピノザこそ現代の王」である。彼はかつて無神論者であると言われた。現代ではその誹りを向けていた人々の方が笑い者となっている。だが、もしスピノザを批判した者たちが、単なる無知のみによってではなく、何かの確な嗅覚によってスピノザを批判していたならば？ スピノザが取りこぼした何か決定的なものがあった、それが全てを変えてしまったのだとすれば？

自費出版体験記～夢・現実・次の夢～

大手自費出版会社と契約し、自著を販売した体験記！



価格	300円
ブース	G-03
著者	病氏

ツイッター：@ganyama

ウェブサイト：http://ameblo.jp/playing-everything/

# 自費出版 体験記

～夢と現実～



そしてある日仕事も終わって帰ろうとした時、ふと携帯を見ると見覚えのない番号から着信履歴、そして留守電が。

「こんにちは、文〇社のM(男性..仮名)と申します。以前応募いただいたエッセイの件でお話ししたいと思ってお電話しました。また改めてご連絡したいと思っておりますのでよろしくお話しします」

…はいつ？ エッセイということはどこかの賞に入賞？ それとも何かの相談？ とりあえず気を落ち着かせて、メモも用意して、回りに人がいないことも確認して(だって恥ずかしいし)、いざ履歴の番号へリダイヤル！ もう心臓バクバクでした！

文「はい、文〇社です」

俺「すみません、えっと、Mさんにお電話もらった病氏と申しますが、Mさんはいらつしやいますでしょうか」

文「はい、少々お待ちください」

しばし保留音

文「申し訳ありません。Mなのですが、只今少し席を外しております。戻り次第おかけ直しよう伝えておきます」

えー折角勇気出して電話したのに、仕方なく自席に戻って仕事片付けつつ電話待ちしました。そんなで仕事関係の方に電話しているところへ、ヴーヴーヴー(携帯バイブ音)だからタイミング悪いって！ 結局その電話にも出られず、その直後すぐに電話してどうにかやっとMさんとつながりましたので要件を聞けました。

M「以前当社の主催したエッセイコンテストに応募していただいていたよなね」

俺「ああ、そういえば出しましたね」

それは数ヶ月前にあつた短文のエッセイコンテストで、たしかに応募しましたが落選の通知はとくに受け取っていませんでした。

俺「でも落選の通知は受け取ってますけど」

M「ええ、ただ私が個人的に読ませていただいたんですが、非常に个性的でしたので他にどんなものを書いているのかみてみたいと思ひまして連絡した次第なんです」

……………はっ？

M「他に小説とか書いていますでしょうか」

俺「ああああ、まあ短いのか趣味程度には少々(動揺)」

M「それであれば、今できている分でも送っていただくことはできませんでしょうか？」

俺「わ、わかりました。近いうちに送ります」

M「よろしくお願ひします。では」

プツ ツーツーツーツツツ…

ダメ女子のダメ女子によるダメ女子のための  
映画評

## 「ダメ女子的映画のススメ。」

赤木杏、いねいみやこ、他  
(マンヒステイック・リリイ・ワークス：F-14)

映画雑誌はなんだかんだで男性が中心だし、TSUTAYAの女性向け映画コーナーはキラキラしててムカつくのでダメ女子のための映画読本を作りましょう！というコンセプトのコラム集です。

立ち上げがれ、ダメ女ども！

(紹介者：赤木杏)

華やかなZINE

## 「We love zine! vol.3」

ZINE部  
(ZINE部：F-19)

『vol.3なのに4にまつわるZINE』のコンセプトが面白いし全体に華やか♪

(紹介者：コットン (シンジンをするZINEの編集人))

こった煮的ZINE

## 「シンジンをするZINE2」

シンジンをするZINE  
(シンジンをするZINE：F-20)

小説あり、写真あり、イラストあり、詩歌あり、短歌ありの第七感を刺激するzine

(紹介者：コットン (シンジンをするZINEの編集人))



---

## 文学フリマ大阪非公式ガイド

---

平成27年9月20日 初版発行

発行者       にゃんしー  
発行所       おとそ大学パブリッシング

<http://necotoco.com/>  
[ppmhr152@yahoo.co.jp](mailto:ppmhr152@yahoo.co.jp)

本書籍は、ウェブサイト「文学フリマ大阪非公式ガイド」に投稿いただいたデータを元に編纂させて頂いたものです。情報を寄せていただきました皆さま、ありがとうございました。これがまた、別の誰かの有益な情報になれば幸いです。(2015/09/20 にゃんしー)

---

[Copyright]

著作権は各寄稿者に帰属します



おとそ大学  
パブリッシング

---

[otoso.ac.pub](http://otoso.ac.pub)